

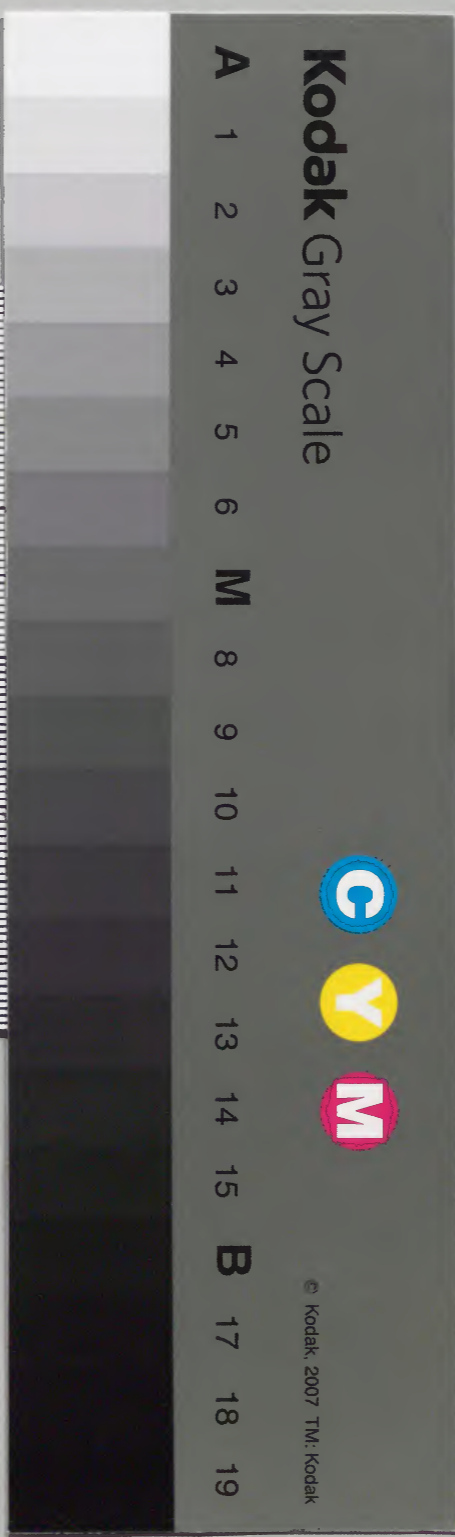
雜留

庫	文	閣	内
八二函	三三六六	九	和書類
一	冊	架	

旧

内閣文庫	
番號	和 32666
冊數	9 ( 3 )
函號	181 46

共九



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

銅瓦兼角の許被先例之事

寺例元 所名代の相制以別限務高の事身以上房の書西

例元の相連の事

寺例元 寺領の書

吹上寺庭上并編の神神之高

京都川東要寺の法式之解

附歷代書

上野僧上寺 佛宮 佛靈屋 佛靈屋法被中

僧正紫衣之寺院

佛宮 諸寺相無接下

佛宮 諸寺相無接下之儀古礼の書

上野 御靈屋の諸大名自科分目錄狀傳子

一 寺府内寺社鳥居燈籠寸法

十二 一 哉後高田長恩寺 所免之物化巡行年限之內任  
職之者及病死後任進願之書面

十三 一 松領ノ上ノ盜賊吟味相ノ以上恒ノ引合ハ私領ノ公領  
ノ書上ノ用石ノ出書ノ後進ノ上ノ進本ノ後書ノ上  
ノ上ノ例

十四 一 涉當家ノ前ノ中絶 中門 再建願書ノ例

十五 一 下田黒東昌寺前ノ居洗志用帳未滿中出奔ノ上ノ例  
開帳ノ上ノ例

十六 一 涉治事 涉治才書之月恒曼信認書

十七 一 日之涉門ニ兵安樂心院宮涉續書

十八 一 津土宗若恒後信ノ同柄忘後有無札書

十九 一 寺社門ノ棟瓦ノ鋪修ノ揚ノ後同合

二十 一 支配調役相田篠重ノ布衣能ハ 作身ノ勤向ノ功ノ  
心得方何取調安會秋ノ級向ノ今ノ書付

二十一 一 上野園ニ云板障大社障障

寛政十二庚申年二月三日

一 南郡龍松院儀大改相修ノ力ノ相並買ノ  
儀去未三月外出別同月十九日 甲子寺儀  
伺並買ノ此二日田中ノ儀並買ノ右相并之  
何修進ノ寺廟並買ノ上ノ例ノ元極ノ上ノ  
之ノ例ノ上ノ寺ノ并並買ノ上ノ例ノ元極ノ上ノ  
安永ノ一ノ儀ノ先修進進ノ儀并ノ上ノ例  
擬ノ上ノ丁房通ノ上ノ例ノ上ノ例ノ上ノ例  
書ノ上ノ例ノ上ノ例ノ上ノ例ノ上ノ例  
及進進ノ見合ノ就並之

南郡龍松院相並買ノ儀并  
注尋ノ上ノ上ノ書付

脇坂法路書

南郡龍松院相並買ノ儀并上ノ上ノ例ノ上ノ例  
及進進ノ見合ノ就並之

正然何物... 尋之... 形作

此後... 元極... 無... 令... 堂社... 亦... 早... 及... 四...

二月

安永七戌年七月廿六日

信列吾先寺法堂烟尾... 九月八日

信列吾先寺大勧進

靈山院

石相頼... 立... 冬... 社... 用... 紙... 根... 以... 仕...

仕度手帳

右通頼公相其寒困在土尾八條中一  
屋根より朽損早年、修復雖も  
大之用心宜雖其仕多幸之頼屋少  
烟尾仕度手帳上ノ尤屋根坪中堂子  
三間或百三拾貳坪余仁王門九拾  
八拾坪余ノ也坪数凡或千只拾只  
坪余ノ也  
以上ノ仕度手帳ノ上ノ仕度手帳ノ  
多分坪数三ノ仁王門中堂子  
而ノ大造ノ役出立仕多幸ノ  
烟尾頼公ノ例也  
以上ノ仕度手帳ノ上ノ仕度手帳ノ  
以上ノ仕度手帳ノ上ノ仕度手帳ノ

七月

安永九十年三月十四日之殿仕度手帳  
同月廿七日水戸上村御高差  
大八日八日人仕

書面仕度手帳  
子三月廿七日

目尾 太田備後守

祐天寺

右相頼公右中堂法堂合是  
損治ノ修復雖も在雖も仕度手帳ノ  
天英院様二九ノ法殿  
有徳院様  
法屋根中ノ烟板  
向平ノ屋根烟尾仕度手帳ノ  
少ノ名豆ノ仕度手帳ノ

系續（元人志以才勅化也傳述）桐瓦之仕  
度寺存以

布、通願出以月未紀少也又上凡言八度、被按  
瓦下、水廻、石、秋、澁、均、元、修、後、雖、仍、而、班、改  
仕、享、保、年、中

天英院棟二之九步啟

有德院棟四之八由任仕箱棟云々、云々、  
中在根句、桐板多年、於、重、均、元、中、重、以、云、

佛殿七坪、約鐘堂四坪、  
堂向、北、拾、四、坪、仁、三、八、坪、惣、坪、板、七、拾、九、坪、  
桐、板、根、仕、貯、重、以、桐、板、云、云、少、石、瓦、仕、以、間  
と、役、同、帳、中、系、續、元、人、志、以、才、勅、化、傳  
述、桐、瓦、仕、度、恒、中、之、以、桐、瓦、後、堂、社、  
百、坪、以、下、瓦、免、以、傷、云、以、均、元、約、鐘、堂、二、五、坪、  
述、桐、瓦、仕、以、例、ハ、中、ハ、中、上、介、云、後、惣、桐、瓦、

願作、在、未、成、以、六、連、一、百、坪、以、下、分、八、志、ノ  
瓦、免、以、傷、未、成、新、願、以、傳、述、以、均、元、堂、社  
之、介、難、未、成、後、下、後、以、均、元、約、鐘、堂、後、ハ、  
天、英、院、棟、佛、建、立、以、約、鐘、之、表、  
文、昭、院、棟、佛、屏、名、云、云、格、利、法、中、結、以、結、  
法、座、以、石、彩、以、色、瓦、免、二、五、坪、桐、瓦、後、以、雖  
板、成、有、一、下、後、以、均、元、寺、以、

三月

寛政十二年二月三日園部因幡守公山崎言  
幕下公等之趣は事等以付別紙高札に記し書  
付二通三本同七日因幡守公以言幕下事

正月廿六日

七月十日

二月廿六日

至心院様

二月廿日

兼基院様

三月八日

蓮光院様

石通寺例札

佛考日法動別限

二月

御取院 正月廿六日

正月廿六日

七月十四日

十二月廿六日

至心院様

三月八日

蓮光院様

右名代

御名代より是迄朝六時迄御成り候事  
何時迄御成り候事女中兼侍等  
又之御成り候事御成り候事

右名代御成り候事御成り候事女中兼侍  
御成り候事御成り候事御成り候事  
御成り候事御成り候事御成り候事

禮部少輔御成り候事 御名代御成り候事  
御成り候事御成り候事御成り候事  
御成り候事御成り候事御成り候事  
御成り候事御成り候事御成り候事

二月

福聚院

赤性院 正月廿六日

赤性院御成り候事御成り候事

御名代御成り候事御成り候事御成り候事

御成り候事御成り候事御成り候事御成り候事

御成り候事御成り候事御成り候事御成り候事



多し紙平少姓の上

二月

喜性院

寛政之未年十二月廿四日一庭也一松月防之不  
刻未

古相談書

小田切土佐与  
根岸北条与

多傷迎去の人是在湯仕並一候是近一付  
来の仕並より洛道下ノ間評議等  
由一庭より古相談の上評議に廻り上り候  
末女正及古書取等より古候等より利紙一  
通方調及古相談也

未  
十二月

未二月十四日  
宋女正友主以後評定所一應成中法評儀  
一上上分多修文

奇揚近古の人其法仕事は死罪に定むる  
以て仁意を以て建直に奇揚に事と爲す  
一昨今少くは控くお成死に及ぶる程に仕直  
とて下級に半竟最初の人殺し多く其  
非難に及ぶる先づ重く是直に其の以て凡  
居り合の上にも法仕事は控を以て傍ら奇  
揚に取締り抱く一聞及ぶる格別の子  
細成す一近古の人の重く方々遠島に  
以下に教則との法仕事お成り成るて  
是れに存心評儀に一上上分多修文

奇揚人其法仕直組直儀有り上上書付

小田切之佐  
根寄北寄

奇揚近古の人其法仕事は死罪に定むる  
以て仁意を以て建直に奇揚に事と爲す  
一昨今少くは控くお成死に及ぶる程に仕直  
とて下級に半竟最初の人殺し多く其  
非難に及ぶる先づ重く是直に其の以て凡  
居り合の上にも法仕事は控を以て傍ら奇  
揚に取締り抱く一聞及ぶる格別の子  
細成す一近古の人の重く方々遠島に  
以下に教則との法仕事お成り成るて  
是れに存心評儀に一上上分多修文

下上等三層酒のきりて内を至極に喜ぶ  
傳(新)を再無許儀仕りて又右相此し以て  
二八迹吉少より介後右相當りしケ案此を  
いに向ふて繼進一許案新一度々後下法  
以上別紙帳内通事目以上

年三月

小田切土佐守  
根岸犯者

寄場河仕重附

小田切土佐守  
根岸犯者

入重宝致入重

困と破り又て宗紙迹よりその

入重、相成り上寄場

仕業去一重目合又合迹云

迹云りその

入重致

但一旦入重致、お成り上又い同根迹云りて死罪

困と破り又て宗紙迹よりその

入重、相成り上寄場

重致

困と破り又て宗紙迹よりその

仕業去一重目合又合迹云

重致

但一旦重致、お成り上又い同根迹云りて重致

入重、相成り上寄場

死罪

此文を為てハト上は地守者目公取らハ却ら佐  
酒の水替人共、任職以候と非儀仕延、并是為  
付下とて、佐候は為り方々下下寄成り一  
佐酒、是れ等々、宗紙、重目合又合迹云、  
寄場迹去ハ罪案云り、以上刑名、今、佐酒、

若くは香を所、少なり、困り、又ハ赤城近去、  
そのハ、故、上、佐、佐、水、替、人、且、下、下、下、下、下、下、  
左、左、左、但、書、一、且、主、故、お、故、上、又、八、因、近、  
去、去、去、去、上、佐、佐、水、替、人、且、下、下、下、下、  
去、去、去、去、上、佐、佐、水、替、人、且、下、下、下、下、  
去、去、去、去、上、佐、佐、水、替、人、且、下、下、下、下、

本文一旦重致、或ハ上、文、近、去、の、所、定、書、  
見、合、り、於、入、書、或、入、書、致、お、る、お、る、お、る、  
所、の、故、人、且、近、去、下、下、下、下、下、下、  
初、寄、場、取、建、石、砌、中、寄、寄、寄、寄、寄、寄、  
の、却、の、文、緯、お、る、お、る、お、る、お、る、  
五、板、の、名、文、下、下、下、下、下、下、  
け、た、い

寄場使先、近

入書、  
上之人、  
金、  
罪

入書致

但一旦入書致、或ハ上、文、近、去、の、所、定、書、  
見、合、り、於、入、書、或、入、書、致、お、る、お、る、お、る、  
所、の、故、人、且、近、去、下、下、下、下、下、下、  
初、寄、場、取、建、石、砌、中、寄、寄、寄、寄、寄、寄、  
の、却、の、文、緯、お、る、お、る、お、る、お、る、  
五、板、の、名、文、下、下、下、下、下、下、  
け、た、い

寄場使先、近

重致

但一旦、中、の、故、お、る、お、る、お、る、お、る、  
重、  
罪

本文一旦、重、致、お、る、お、る、お、る、お、る、  
佐、佐、水、替、人、且、下、下、下、下、下、下、  
初、寄、場、取、建、石、砌、中、寄、寄、寄、寄、寄、寄、  
の、却、の、文、緯、お、る、お、る、お、る、お、る、  
五、板、の、名、文、下、下、下、下、下、下、  
け、た、い

寄場近、去、致、盗、り、の

寄場近、去、の、所、定、書、  
無、盗、始、末、吟、味、上、盗、  
附、の、仕、在、下、下、  
今、言、難、也、接、者、の、上、ハ

寄場、の、盗、り、の

死罪

今高難むら指あゆむ

入書致

但一旦入書致、相成の上盗りしもの死罪

三十日

子須

考場下近き處へ合  
又ハ人出近き  
後隠居しもの或は  
疑と名し近きもの

但氣流存世所裏より  
多々及たり

因と成り又ハ宗致近き  
もの且入書ゆへに所仕  
未成り人出たり

重致

考場近きもの  
自分と立派なもの

使先又ハ仕業、出し  
ゆれ近きもの

五十日

子須

二十日

子須

考場下近きもの  
自分と立派なもの

一 頼上化出りて入  
舟帰りのもの

二十日

子須

一 考場下近きもの  
自分と立派なもの

角取赤子しすもの  
いもの

重致

具介ハ

重致

但五拾文以上し、  
ゆつて重致

一 非人し低押隠し  
考場下近きもの

五中しすもの  
様多しゆるもの

一 職業全替り  
石相用のもの

三十日五十四式二百

子須

徒業々間爰候致りしもの  
書に准し、清仕並下りもの

一 拾五歳以下しもの  
一 若軽く下りもの

- 一 痲病式ハ瘡毒未煩りたる湯治較し一  
 与未新りたる毒手高致を致せ下り  
 一 博奕又ハ悪巧未行りたるをせし倣とあり  
 出七千兩と考奪奪たりたるを  
 一 考場より引渡は後ハ無事ハ初る由定書  
 通法仕並下り甘し

巳国 七月七日

宋女正房上西人三々所生上ハ  
 四月不日申在承方以承方人日後申甘下一回不日申在承上

考場 淨仕並附

書而通集申仕並下り甘し  
 七田切土佐也  
 村上飛後也  
 巳国 七月九日

- 一 考場 團と被近去りたる 死 罪

- 一 考場 肉仕業と出並りたる 入 重 罪  
 人目合 近去りたる 考 元 考 場 考 元 重 罪

但一旦入重罪と申成以後又ハ近去りたる死罪  
 附考場考元同心應改以上行先人より引渡

- 一 考場 便先ハ近 死 罪  
 殺しりたる 今言難也元去あはハ

今言難也元去あはハ  
 入 重 罪

但一旦入重罪と申成以後又ハ近去りたる死罪  
 附右同引

- 一 考場 便先ハ近去りたる 重 罪  
 但右同引

- 一 考場 近 盗 殺りたる 死 罪

- 一 考場 盗 盗りたる 死 罪  
 地取用隠居りたる

中文寄場と盗り一以上下迎ふに地不田法  
 居り去死罪しよりしつれ既、次々条寄場  
 監りしつれ今より居り、白法は違ふる  
 といはれ寄場と盗りしつれ同様に下迎ふに  
 監居りしつれ一殺死罪しお物りし法  
 之下、物盗り下迎ふに監居りしお物りし  
 一、お物りしお物りし寄場と盗りしつれ、  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし

一 寄場と盗りしつれ

金を難ぬ  
 捨るつれハ  
 金を難ぬ  
 捨るつれハ

死罪  
 入書致

但一旦入書致、お成り後又口被盜りしつれ死罪  
 附寄場と盗りしつれ、お成り後又口被盜りしつれ、  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし

一 寄場と盗りしつれ

但氣持、お成り後又口被盜りしつれ、  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし

一 寄場と盗りしつれ

迎ふに、お成り後又口被盜りしつれ、  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし

入書致

一 寄場と盗りしつれ

三十日

但、お成り後又口被盜りしつれ、  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし

二十日

一 於寄場と盗りしつれ

筒取赤子、お成り後又口被盜りしつれ、  
 一、お物りしつれ下迎ふに監居りしお物りし

重致

但五拾文以上より、徳御の部は、  
増え、より重致

一 非人之儀、押隠寄場、  
相違、  
非人、  
増え、  
増え、  
増え、

一 職業之類、又、  
三日、  
子、

一 徒黨之間、  
淨宜書、  
一、  
一、

一 格、  
輕、  
一、  
一、

一 傳書、  
一、  
一、

一 通、  
一、

一 寄、  
一、



寛政十二申年二月行 淨城大物取之事  
 於本月廿七日曉谷中 威惠寺門前茶  
 屋町出火 火由西より山田切土付より  
 立ち元常例より外中より以て後大物取  
 先月 昔在威惠寺外へ後四合より  
 然るに同より門前地より其の外より後  
 より越雨より其在土佐より越土切付  
 少く沙汰より其へ後九一向の月より其  
 后威惠寺に持出たり其礼より後法院  
 其の外より越土より今より同より門前  
 寺より其の外より其の外より同より例  
 其の外より其の外より其の外より其の外  
 其の外より其の外より其の外より其の外  
 其の外より其の外より其の外より其の外  
 其の外より其の外より其の外より其の外

類信字置之

心費

去月廿七日曉谷中 威惠寺門前茶屋町  
 出火 類焼 三丁余

一 天月四辰年 同所中門前町出火 類焼長  
 拾九間余

一 此度出火 場町寺領三拾八丁(月)事

護法院

去月廿七日曉谷中 茶屋町出火 大元(儀

當時門前地より多し相札書付存上り候事  
速書札申上り候事一通に付座り

一 吾中茶屋町政次郎座居候事情に申上り候事  
宅へ出火仕別子連河津寺の所より傳上り候  
小田切土佐守屋少掛より大元へ候高付法吟  
味中へ申上り候事

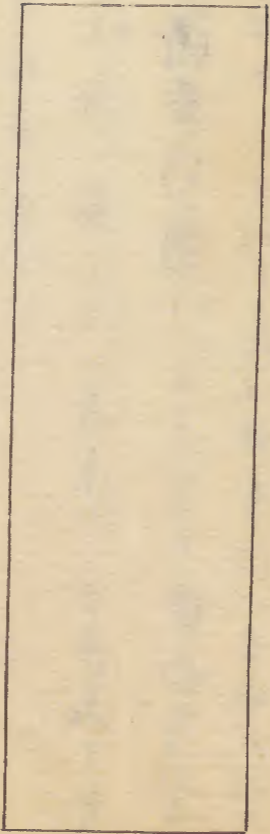
一 地所へ候高寺より傳上り候事  
河津座り  
右へ通河津座り候事  
谷中盛高寺住持

申二月

河津院印

寺社

河津院



寛

當時領分之内谷中茶屋町政次郎座居候事  
傳上り候事一宅へ先月廿七日晴出火仕候事  
未より傳命申上り候事名之町役人より傳  
奉河津座り候事一上り候事一十七年  
心若天明四年辰巳月七日中門前町へ出火  
候事大元へ候河津寺の所役人より傳  
上り候事一上り候事一河津寺の所役  
人より傳上り候事

谷中盛高寺住持

申二月

河津院印

寺社  
御奉納所

天明六年十月廿五日  
海松寺

所其口日一修九ツ才以高寺領三田口ツ家  
所家之林才口一之の店店之席口一者  
居宅家根上ハ出大仕高例口長口武接間  
禮幅九六間禮焼矣任作依ノ有ハ殿中布  
口止口口上

年十月廿五日

海松寺

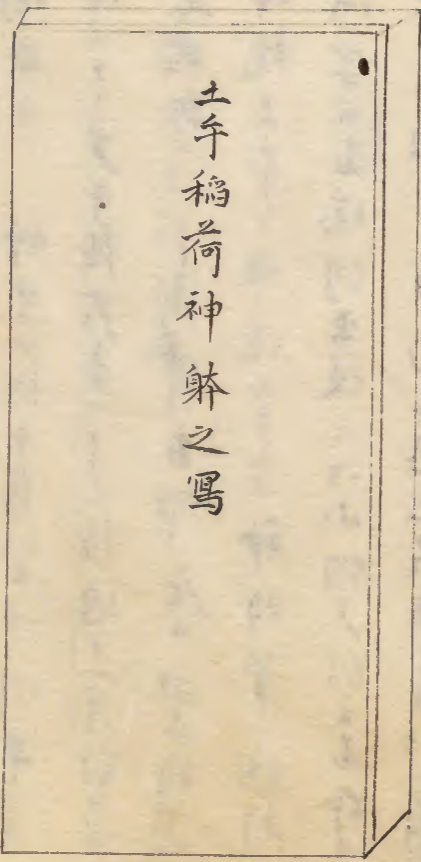
寺社  
御奉納所

右一通十月廿五日  
月番此方にも届いた  
仍とも希く見分未ハ  
以之申事

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

寛政八丙辰年吹上所産縮行同承  
作付別自分取扱云滞未済未細之別一件帳  
記之(弓交略之儀与左ノ通第書書之  
月書草笈之細事)

第白本



土手稻荷神躰之寫

第益書書

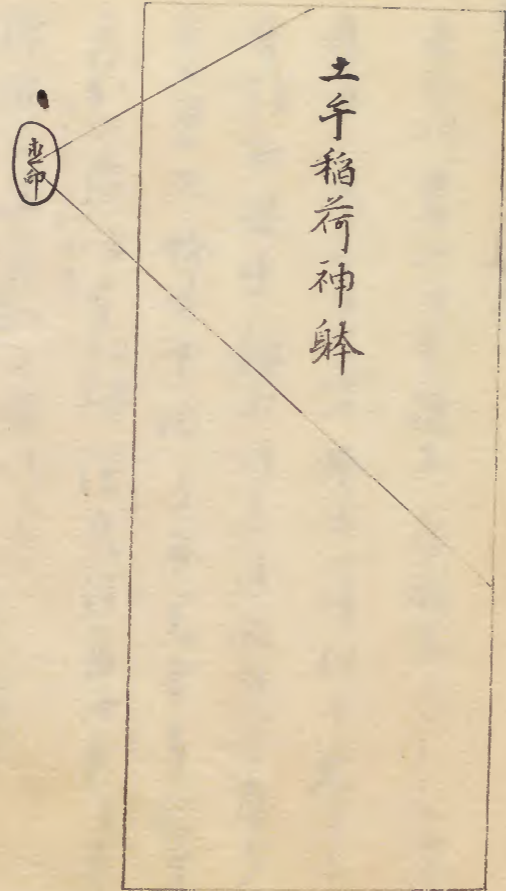
五

寛政八丙辰年九月十四日 宗納戸以取小整日寫

若吹上師、應法結乎稻荷正神根津行現  
 神之伊吹方、亦方有札、伊吹方、  
 同方、亦有札、以之、  
 延書、  
 開麻、  
 儀、  
 麻式、  
 神鏡、  
 紙、  
 向、  
 二日、  
 上、  
 作、  
 多、

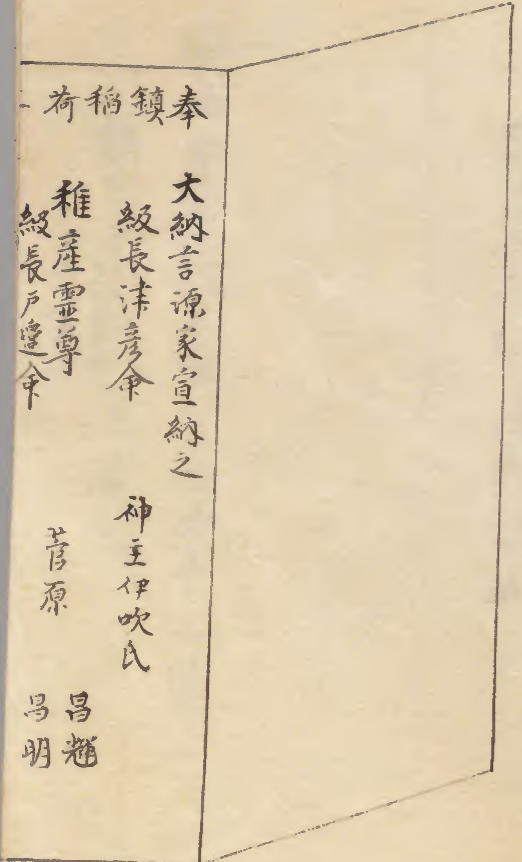
寛政八丙辰年二月  
 脇坂法隆

土手稻荷神躰



折上

稻荷三社神躰



社二  
魂

至永元西歲  
三月廿五日

シナカツベニミコト

ワカミムスビミコト

シナカトベニミコト

名葉

ニサテル  
マサアキフ

寛政十年年五月

系部川東要法寺後者自威院外其人佛  
在方々低身中立以吟味一併松平右宗九  
寺社筋後中頼出同人後後替月自自分  
方々受取吟味中桐子少覚寺中深寺  
方々以要法寺日春法式江々要法寺  
法式日立方々以歴代書

要法寺

日春  
日良

法式注解

要法寺女六代日春享保六年之法式し江

諸末寺中法式



弊ハ敗也廢ハ破也顯也ニ云レトハ  
或ハ放成ニ及ビ此ノ以テ  
備按事起他門挿入

信東自門  
自門ハ要法寺ノ所ニ他門ハ他ノ所ニ在リ此ノ以テ自門ニ在リ他門ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ  
此ノ以テ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ

或無字名被練(傍或不知專門奥哉  
此ノ以テ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ

能私擅也夫  
要法寺ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ

規校ニ準テ所令切戒也  
古式ニ準テ礼ノ事ニ切戒スル門葉

車御款無妄意者  
此ノ以テ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ

牒各判印  
此ノ以テ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ

紙如件

享保六年月日

本山要法寺印 實有 日春判

後考

寛行院印

右所條目之通毫末透肖仕間方ハ最為  
近代西ノ判形抄上ノ文

末寺連印

同世代日象代末寺ノ所ニ在リ此ノ以テ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フモ其ノ意ハ自門ノ所ニ在リ他門ノ所ニ在リト云フニ在リ  
日春享保六年ノ法式以後五十五年迄  
本隔ノ作在キ文及及臣解如左ハ  
二卷ハ









右系 拾遺(任) 右之 又粗く私  
 評上書 法(一) 法(二) 法(三) 法(四) 法(五)  
 法(六)

一 右日良(法) 今(大) 集(六) 箇(五) 百(五) 年(法) 奉(併)  
 法(八) 五(百) 年(法) 元(古) 古(舊) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)

法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)  
 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新) 法(新)

有<sup>一</sup>以<sup>二</sup>法<sup>三</sup>令<sup>一</sup>、語<sup>二</sup>法<sup>三</sup>門<sup>一</sup>流<sup>二</sup>一<sup>三</sup>統<sup>一</sup>名<sup>二</sup>將<sup>三</sup>合<sup>一</sup>子  
弟、以<sup>二</sup>法<sup>三</sup>令<sup>一</sup>是<sup>二</sup>進<sup>三</sup>右<sup>一</sup>、能<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
五<sup>二</sup>百年<sup>一</sup>、例<sup>二</sup>若<sup>三</sup>祖<sup>一</sup>師、宗<sup>二</sup>後<sup>一</sup>也<sup>二</sup>今<sup>三</sup>進<sup>一</sup>五  
百年、以<sup>二</sup>法<sup>三</sup>令<sup>一</sup>與<sup>二</sup>祖<sup>一</sup>師、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
中<sup>二</sup>法<sup>一</sup>、法<sup>二</sup>門<sup>一</sup>等<sup>二</sup>受<sup>一</sup>下<sup>二</sup>法<sup>一</sup>、上<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>令<sup>二</sup>法<sup>一</sup>令  
法<sup>二</sup>一<sup>一</sup>統<sup>一</sup>名<sup>二</sup>均<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>令<sup>二</sup>文<sup>一</sup>西<sup>二</sup>下<sup>一</sup>明<sup>三</sup>白<sup>一</sup>、法<sup>二</sup>門<sup>一</sup>上<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
邪<sup>二</sup>正<sup>一</sup>、以<sup>二</sup>法<sup>三</sup>令<sup>一</sup>之<sup>二</sup>進<sup>一</sup>新<sup>二</sup>義<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
一<sup>二</sup>祖<sup>一</sup>師<sup>三</sup>之<sup>二</sup>下<sup>一</sup>種<sup>三</sup>、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>時<sup>三</sup>、又<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
之<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
心<sup>二</sup>之<sup>一</sup>佛<sup>三</sup>、以<sup>二</sup>法<sup>三</sup>令<sup>一</sup>之<sup>二</sup>祖<sup>一</sup>師、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>根<sup>三</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
中<sup>二</sup>佛<sup>一</sup>之<sup>二</sup>新<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>根<sup>三</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
述<sup>二</sup>佛<sup>一</sup>也<sup>二</sup>、亦<sup>三</sup>以<sup>一</sup>法<sup>二</sup>名<sup>一</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>根<sup>三</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
之<sup>二</sup>祖<sup>一</sup>師<sup>三</sup>之<sup>二</sup>下<sup>一</sup>種<sup>三</sup>、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>時<sup>三</sup>、又<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>

聞<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
重<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
具<sup>二</sup>是<sup>一</sup>法<sup>三</sup>之<sup>二</sup>也<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
述<sup>二</sup>佛<sup>一</sup>也<sup>二</sup>、亦<sup>三</sup>以<sup>一</sup>法<sup>二</sup>名<sup>一</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>根<sup>三</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
法<sup>二</sup>之<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
右<sup>二</sup>師<sup>一</sup>、祖<sup>二</sup>師<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
法<sup>二</sup>之<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
一<sup>二</sup>法<sup>一</sup>令<sup>三</sup>之<sup>二</sup>、當<sup>一</sup>門<sup>二</sup>佛<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
以<sup>二</sup>通<sup>一</sup>、曼<sup>二</sup>陀<sup>一</sup>、經<sup>二</sup>之<sup>一</sup>、祖<sup>二</sup>師<sup>一</sup>、心<sup>二</sup>之<sup>一</sup>、佛<sup>二</sup>之<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
未<sup>二</sup>像<sup>一</sup>、亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>  
亦<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>、故<sup>二</sup>以<sup>三</sup>法<sup>一</sup>名<sup>二</sup>五<sup>三</sup>萬<sup>一</sup>

此云祖師日身之傳授と一云日本同好  
抄百六箇條、中七箇、口傳、極書  
一、方信ハハ、以辰夜、中身、空山、日辰  
一、瑞、本認ノ一、以日身、立文、本六、條  
一、才十、四、條、本、文、本、施、一、一、條、本、文  
才十、一、才、十、二、黒衣、製、持、一、條、目、本、一、本  
の、凡、佛、像、刻、山、一、才、十、條、本、文、一、才、六、條  
一、同、一、條、本、文、本、施、一、一、條、本、文、本、一、  
辰、瑞、儀、仕、相、化、儀、抄、一、三、七、七、條、一、本、才  
十、條、一、信、元、宗、一、觀、音、抄、音、等、一、法、佛、  
善、薩、一、本、才、一、才、下、辰、但、一、十、界、一、曼、陀、  
一、本、才、一、才、本、一、才、本、一、才、本、一、才、本、一、才、  
一、一、才、一、才、一、才、一、才、一、才、一、才、一、才、  
事、一、用、一、本、才、一、信、心、一、本、才、一、信、心、  
一、本、才、一、本、才、一、本、才、一、本、才、一、本、才、  
一、本、才、一、本、才、一、本、才、一、本、才、一、本、才、

立花、祖師、像と本才、一、才、ハ、本、才、佛  
言、疾、疾、本、才、一、用、一、本、才、一、信、心、  
一、一、才、一、本、才、一、本、才、一、本、才、一、本、才、  
一、日、身、一、本、才、一、依、一、本、才、一、中、身、一、日、辰、一、本、  
一、六、才、條、一、七、才、條、一、中、一、佛、像、一、本、才、一、制、持、  
一、言、兼、一、本、才、一、辰、一、本、才、一、  
一、若、祖、師、日、連、密、一、佛、像、一、制、持、一、色、一、本、才、一、  
一、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、

一、若、祖、師、日、連、密、一、佛、像、一、制、持、一、色、一、本、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、  
一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、一、才、一、

日尊の佛像を制定して曼陀羅に  
 法と定めて自ら未像と奉為せしむるは  
 前後傳へお造りて之を以て礼を賦子し其の  
 之甚て信を中く一宗に祖師といひ雅信人  
 弟に伊丹の事ありて之を以て其の法傳授  
 以て其の依り佛像と取拂自多し傳中と立  
 意の未傳ハ中一宗と一統と存の事ハ此  
 以上

歴代書

要法寺

永二條川系新寺名

要法寺

宗祖日蓮大聖人

元祖高序本六卷僧三

二世

白蓮何園梨日興

三世

日興弟子  
蓮藏何園梨日興

四世上行寺住持西寺之開基

日興弟子  
大丈何園梨日興

五世 上行寺  
住本寺

三浦阿闍梨 日大

六世 上行寺  
住本寺

岸相阿闍梨 日圓

七世 上行寺  
住本寺

近江阿闍梨 日從

八世 上行寺  
住本寺

京極阿闍梨 日得

九世 上行寺  
住本寺

蓮妙阿闍梨 日巖

十世 上行寺  
住本寺

河内阿闍梨 日蓮

十一世 上行寺  
住本寺

運乘院 日廣

十二世 以時右雨寺合号要法寺

堀川阿闍梨 日法

十三世

西京阿闍梨 日在

十四世

權大僧都廣藏院 日辰

十五世

權大僧都實藏院 日朝

十六世

權大僧都本地院 日性

十七世

大僧都大雄院 日恩

十八世

大僧都自成院 日亮

十九世

本種院 日陽

二十世

智見院 日成

廿一世

惠光院 日瑞

廿二世

真如院 日體

廿三世

本地院 日祐

廿四世

妙種院 日詮

廿五世

信行院 日鏡



廿五世

随信院 日舒

廿六世

本住院 日春

廿七世

出雲阿闍梨日真

廿八世

豊前阿闍梨日全

布通相遠正也居嵩山依從祖師以於  
血脉亦承一功才歷教立者心也

寶曆三年壬午三月

京三條川東坊三會  
要法年印

今般口戶

寺社濟奉行新勝者法

溯本寺各同山之末歷代石鏡書付  
以如也 作付以方自本妙寺書紙為係

常若相改右之通相認為

壬午三月

廿九世

蓮昌院 日意

三十世

和泉阿闍梨日良

卅一世

本行阿闍梨日住

卅二世

安住阿闍梨日立

布通相遠寺四座以上

寬政十一年五月

京三條川東坊廿二世  
日立判

寺社  
郎奉修所

寛政十二中年二月六日刻本同日暮下ケ札五  
調方遣

一切紙幣上仕口然多ケ法地

佛宮 河靈屋 佛目見下以家人

兼屋口幣以幣後友縫做如帳座未度余

刻有年号ケ介町人号洋禮儀不其

丈ケ妙道ケ場而ケ外礼儀多ケ町人

洋禮席ケ儀ハ前ケ由法事ケ法儀後

以包ケハ佛唐門用ケケケ以得ハ右席

以幣縫做ケケケ洋礼席ケ利ケケケ

以外法儀移ケケケ儀ホケ由水知信交

ケケケ右ハ南北金地院

佛宮ハ法家人町人凡ケケケ洋礼席始

上階下泥雜信未ケケケ札ケ後右設座

中出山具又古源流少々法代  
 多解洋礼序後是又同院修月始  
 丁出山後亦有具令々々々々々々々々  
 少許少乃々々々々々々々々々々々々々々  
 河夕下々々々々々々々々々々々々々々々  
 上

二月廿七日

曲剛 和永寺下  
 松平信濃守

比井大徳氏  
 松平周防氏  
 恒政法路氏  
 植村駿河氏

此書西洋礼序後是又同院修月始  
 刊上此振南坊上守修之未礼也刊成  
 書甲之魚下出依之乃此書分於各冊  
 其終也只存名也

二月

比井大徳氏  
 松平周防氏  
 恒政法路氏  
 植村駿河氏

布(以)回谷(以)有刊上野推尚坊上守修之未礼  
 知有(書)面(其)給(未)是(刊)上(守)修(之)未(礼)也(刊)成  
 以筆

嵩山

仲言 仲重氏  
 佛目見山寺法永人  
 葉金口常以序始之介町人法儀  
 中々(丁)迄(之)列(紙)之(在)若(院)津(集)院(末)  
 漸院大意流分丁町子以修上

二月

櫻伽院  
 功連流

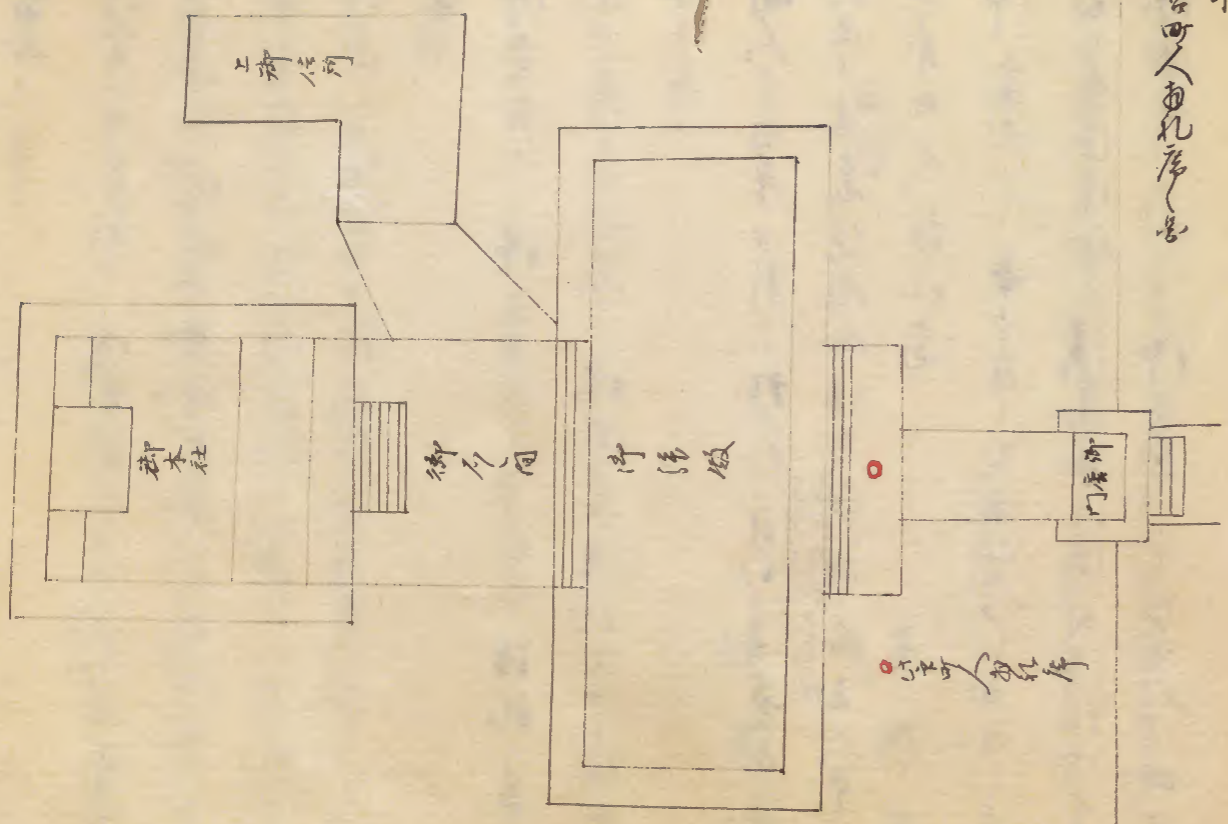
一高  
御言 御目見以下御家人在奉合口常御常  
後藤越前守御目見以下御家人在奉合口常御常  
御儀御目見以下御家人在奉合口常御常  
御儀御目見以下御家人在奉合口常御常

一高  
御言 御目見以下御家人在奉合口常御常  
御儀御目見以下御家人在奉合口常御常  
御儀御目見以下御家人在奉合口常御常  
御儀御目見以下御家人在奉合口常御常

二月

御言御  
莊者院

上野  
御言御家人御目見



嵩山

淨宮 淨靈堂。淨日見於淨水人。每歲在  
淨宮次第。送外。福。淨。系。刻。有。年。昔。日  
淨水。淨人。淨。禮。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

一當

淨靈堂。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

一町人。四月。日。折。抄。礼。之。外。之。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

淨靈堂。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

一淨事。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

淨禮。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

大猷院。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

東。漸。院

二月

表有院。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

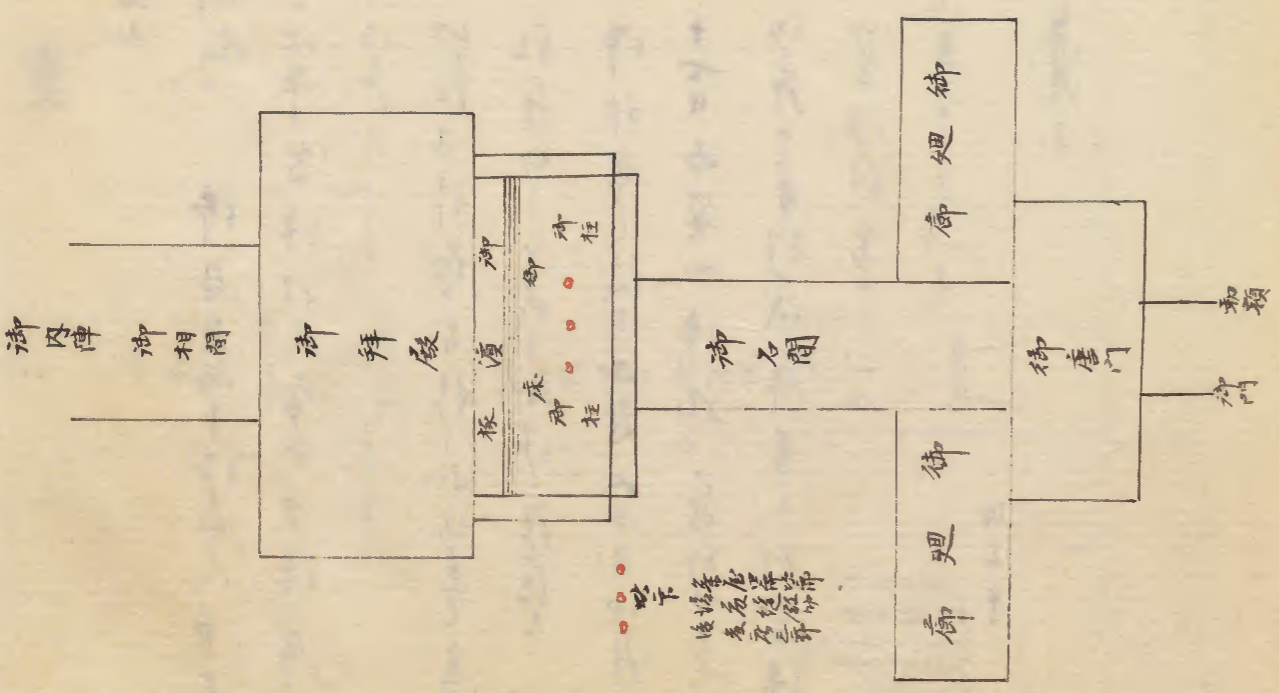
上野

淨宮。淨靈堂。淨日見於淨水人。淨禮。淨日  
淨水。淨。水。外。故。主。一。水。友。以。之  
行。建。一。場。所。之。淨。水。禮。水。淨。事。

尚 淨靈殿に 淨月見以下諸人相礼  
 平日亦此所より仙事一場所より淨礼等  
 一 紙分編分り所  
 一 四人一月淨礼其の次序  
 淨靈殿より後庭屋宇前 宗別府幸寺中  
 以上より淨礼所へ城より浄椽下浄一本浄  
 相儀より淨礼仕所より  
 一 淨法事之初外より四人淨礼より  
 浄庭門内浄石内より淨礼仕所右場所より後  
 庭目外礼より浄霊淨礼仕所城在所由書局  
 以上より浄礼仕所

二月  
 奉憲注儀  
 方徳注儀 淨利向  
 若春後儀  
 大 总 院

上野  
 淨靈殿所人淨礼序一書



以下  
 浄霊 浄石 浄椽  
 浄霊 浄石 浄椽  
 浄霊 浄石 浄椽



寛

所高山也

所靈屋

佛目見以下法承人英之宗屋

四原治常法差後助櫻庭朱丹系刻着

年号有之介四人等法形一才之英洋

席少尊、少尊也

此後法形高之礼以之何進山名希

書有本是之何一以何形之法用達所

人為別成席也(一)之何法形也

一佛法事、法法形、後書有之何一以

此後法形高之礼以之何進山名希

分得法形高之礼以之何進山名希

右位内守一上口也

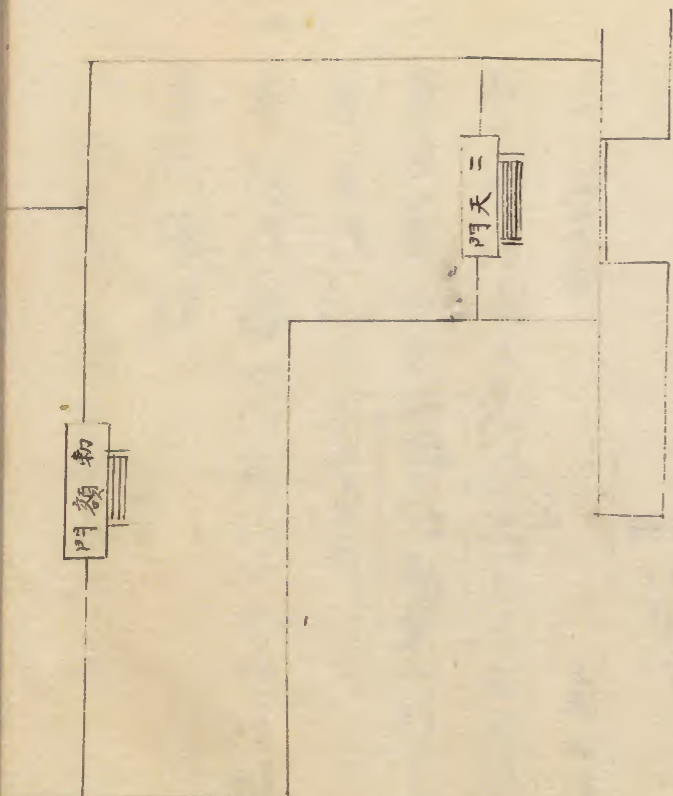
二月

増上寺

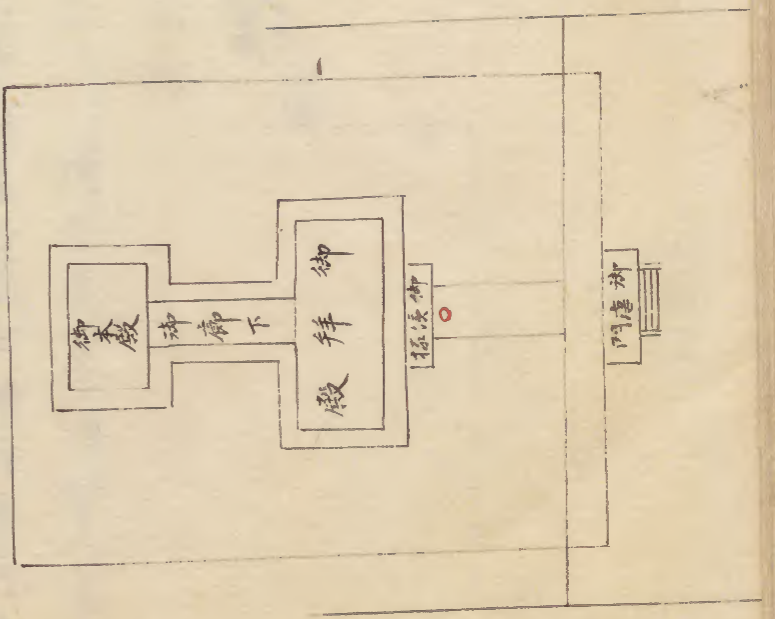
後名

増上寺

法形高之礼以之何進山名希







御書院  
 御法座  
 御拜殿  
 御門

寛政十二庚申年二月伊豆与度十駿河  
 以同合有(於同所)在取御書院相達上書白

天台宗紫衣之寺院

山門東塔

紫衣

三覺院前大佛三

同西塔

紫衣

三觀院前大佛三

同横川

紫衣

惠公院前大佛三

右二ヶ院恒藏日光寺門主公依侍渡

一多武家台野山學以和氣公始上山門(称

号)与伊礼中上公

一年願沙禮山門想代上从二月朝日沙白

書院獨禮

一御殿於柳之間至中依侍渡

同松禪院任持

任心院檀僧正

右任職沙門主事作渡

一 继目英任度(清礼)白書院獨禮

一 御暇於柳之間至中宮作渡

一 年頭沙礼以代僧二月朔日沙次一同

御自見(中)

日光山學政

修學院檀僧正

東叡山學政

凌雲院大僧正

紫衣

右二ヶ院任職沙門主事立於沙白書

院沙縁類臺中列座作渡

一 入院英學政任職沙礼(白書院)獨禮

一 年頭沙禮二月朔日御白書院獨禮

山上別當

親理院檀僧正

武列仙波

赤多院僧正

上列世良田

長樂寺檀僧正

佛頂院相兼

右三ヶ院任職英僧正官(沙)何(上)沙

門主(下)任渡

一 任職英任官沙禮(白書院)獨禮

一 年頭沙礼(白書院)獨禮

但親理院三月十五日外二ヶ院(二月朔日)

系大併

養源院僧正

紫衣

右任職沙門主事(下)任渡僧正官(下)任渡

之上門之公法後

一住職本任有沙礼所白書院獨礼

一河原於柳之間老中法後

一平願沙禮代信总二月廿九日所白書院法一回所能也

京真如堂

上宗院大僧正

右住職沙門至公法後信有法之於京都也

海以沙禮右任也

一继目沙礼所白書院獨礼

一河原於柳之間老中法後

一平願沙禮代信之

江列多矣

尊勝院

當時院家

右住職沙門至公法後信有法之於京都也

海以沙禮右任也

一继目沙禮所白書院獨礼

一河原於柳之間老中法後

一平願沙禮代信总二月廿八日所白書院

法次一回

一河原於柳之間老中法後

幸列男子

千妙寺控坊云

惠恩院相兼

右住職沙門至公法後信有法之於京都也

一上門之公法後

一入院本任官年以沙礼所白書院獨礼

礼所能也

但高村惠恩院白法願分列此礼也

此列所宮内利尚

第衣

雲蓋院控坊正

尾列 淨土山列南

南時流系

尊 壽 院

右二ノ院任職法門主ノ位任渡傍正官職  
之任候上法門主ノ位任渡

一 继日任官法門主職ノ位任渡白書院  
獨礼

一 御帳於折之間老中位任渡  
一年頭法禮也

多武尊子以

紫衣

竹林坊持傍正

右任職法門主ノ位任渡上ノ位任渡社奉行  
取中法

一 學頭職ノ位任渡白書院獨礼法服也

一 山門幕布等ノ御扱 奏ノ位任渡以持  
之任職任官法門主ノ位任渡

一年頭法禮也

信台先寺大勧進

紫衣

津林院持傍正

右勤功多ノ為御褒賞一代限ノ持傍正  
成度有法門主ノ位任渡之思申上進取成也

一 任官ノ位任渡白書院獨礼

右之介ノ行進後僧上寺ノ位任渡正位任渡  
之排衣前黄衣忌用也中ノ紫衣之儀ハ  
法門主ノ位任渡ノ格別ノ位任渡等ノ中ノ位任渡  
尤右ノ同系勅向名青蓮院法門主ノ位任渡  
紫衣御免ノ分ハ有之也當付紫衣ノ分  
名前上ノ位任渡

上列流川

真光寺持傍正

野初長派

宗光寺檀修云

右二ヶ院任職法門之主  
儀者法門之主  
一入院任職法門之主  
一奉願法門之主  
寺之

但右二ヶ寺院家言云  
袈衣萌衣衣  
仰免ハセム

京都四ヶ寺

二尊院  
廬山寺  
般舟院  
蓮院

右一稿紫衣

仰免法門

一任職法門之主  
一继目法門之主  
一仰願法門之主  
一奉願法門之主

山口坂中

紫衣

西教寺

右一稿紫衣  
仰免法門之主  
一任職法門之主

浄土宗紫衣之寺院

袈衣萌衣

増上寺大僧云

右任職法門之主  
仰願法門之主

仰前云 作外云

一任職安任官之沙禮印白書院獨札光

中書取合

上意多

一年頭沙禮印白書院老中取合

上意多

想本山宗

維衣茶葉衣

知恩院大僧正

右任職於印白書院沙極類老中列在

右位

一任職沙禮印白書院獨禮

一大僧正沙禮印白書院獨札

一入院為沙禮印白書院獨札

當時彼者有人印白書院此錄類印白書院

際言 即日見

一右本原住後宿坊

上使沙使番若洋領物有(小唯)下直

一年頭沙禮二月十五日使僧印白書院沙極類

山障子漆(獨禮)

一印順於柳之間老中(沙禮)

小石川

紫衣

傳通院

右任職於印白書院沙極類老中列在(沙禮)

一任職沙禮印白書院獨禮

一年頭沙禮三月六日印白書院獨札

源倉

紫衣

光明寺

仇連

紫衣

常福寺

右二寺任職於印白書院沙極類老中列

在(沙禮)

一任職沙羅河白書院獨禮

一年願沙禮正月六日大廣間獨禮座一因

一河服毒之

飯石

紫衣

弘經寺

新田

大光院

紫衣

右二寺任職於河白書院沙羅類考中列在沙羅

一任職沙羅河白書院獨禮

一年願沙禮正月六日河白書院獨禮沙羅等

之

淺草

紫衣

誓願寺

西久保

紫衣

天德寺

右二寺任職於河白書院沙羅類考中列在

沙羅

一任職沙羅河白書院獨禮

一年願沙禮正月六日河白書院獨禮

京

紫衣

知恩院

同

紫衣

清淨華院

日

紫衣

金戒光明寺

右三寺任職於河白書院沙羅類考中列

在沙羅

一入院乃沙羅河白書院獨禮

一河服於河白書院中

一年願沙禮等

紫衣

三列

大樹寺

紫衣

三列

寶覺院

紫衣

三列

高月院

紫衣

三列

信光寺

紫衣

三列

松應寺

右五ヶ寺任職於河白書院山縁於寺中列  
座於作所

一任職於河白書院獨禮

一年願沙礼正月十八日奉書相勤河白書院  
獨禮

一任職年願云河順於柳間老中於河渡

紫衣

哉前

運正寺

紫衣

筑後

吾導寺

右二ヶ寺任職於壇上寺十付

一入院沙禮河白書院獨禮

一河順於柳間至中於河渡

一年於沙禮云々

紫衣

澤列

法然寺

右任職於河白書院沙縁於寺中列座  
於作所

一入院為沙礼桑麻ノ帝河白書院獨禮

一河順於柳間老中於作所



一年頭沙禮(

尾列

紫衣

建中寺

右任職於尾後殿(

入院沙禮(

一 所順於柳之間(

一年頭沙禮(

尾列

紫衣

大智寺

右任職於尾後殿(

入院沙禮(

一 所順於柳之間(

一年頭沙禮(

廬山流本寺

泉列

紫衣

旭蓮社

右任職於志恩院(

入院沙禮(

一年頭沙禮(

但七年月出

入院(

西山流本寺

京栗生

紫衣

光明寺

同本寺

京东山

紫衣

禅林寺

深草流本寺

京神

紫衣

栴云願寺

同本寺

系

案衣

圓福寺

右口寺任職一沱老革之内未山不却定

一入院涉禮冲白書院獨禮

一御暇於柳之間老中被作

一年頭涉禮

深草沱

三列

案衣

妙心寺

曰

三列

案衣

大林寺

右二寺任職本寺系功於園福寺

一入院涉禮冲白書院獨禮

一御暇於柳之間老中被作

一年頭涉禮正月廿八日冲白書院獨禮

但七年日出

一御暇於柳之間老中被作

天濃國

案衣

立政寺

右任職末寺塔以吟味之相定

一入院涉禮

一年頭涉禮正月廿八日冲白書院獨禮

但六年日出

一御暇於柳之間老中被作

新義真言宗紫衣之寺院

東部

本寺

紫衣袈裟二色  
他官法王子等志用

如積院

初瀬

本寺

小池坊

右高寺任職於御白書院以縁類老中  
列座於法渡

一任職法禮御白書院獨禮

一御暇於柳之間老中任作渡

一入院後檢任正正信持任法禮兼所長

一御白書院獨禮

一御暇於柳之間老中任作渡

但弘川渡法院文部

一年頭法禮以代修三月廿八日御白書院法  
次一回

一御暇於檢問寺社奉行十渡

大塚

紫衣袈裟一色  
但官法王子等志用

護持院

右任職於御白書院法縁類老中列座被  
任渡

一任職御禮御白書院獨禮

一年頭法禮三月二日御白書院獨禮

一任官法禮御白書院獨禮

京都千本

紫衣袈裟二色志用

上呂蓮菴寺

右任職於法禮御白書院

系幼

清和院

紀州根來

蓮花院

右任官清名紫條（高衣忌用之寺格）  
（以當時未任官分）

濟家宗紫衣之寺院

山城國葛野郡花園

下寺

紫衣地

妙心寺

右任職末寺之內紫衣（老僧一十年花輪  
番持）

一入院每年頭沙禮（番府之）

一入院年頭沙禮（可月代迄迄）

京妙心寺地中

麟祥院

當時異

右任職園基檀越福系家（尸付）

一任職沙禮（白書院獨禮）

一佛眼於柳之間老中（被作渡）

一（年以沙禮二月十五日佛白書院獨禮）

但七年月出

一佛眼於柳之間老中（被作渡）

淺草

當時紫衣

海禪寺

牛込

當時高衣

松源寺

芝

當時着衣

東 禪 寺

右三々寺任職才子讓

一 繼目之沙礼仰白書院獨禮

一 年頭沙礼正月廿六日大廣間獨禮座一回案

衣黑衣之無名刺案樂

御免

牛込

濟 松 寺

當時着衣

右任職於寺社事約所中沙

一 任職沙礼仰白書院獨禮

一 案衣沙礼仰白書院獨禮

一 年頭沙礼大廣間獨禮座一回

一 案衣黑衣之無名刺案樂

御免

湯 鴻

當時着衣

麟 祥 院

右任職開基檀家稻葉系分中沙

一 寺院沙礼仰白書院獨禮

一 年頭沙礼正月廿六日大廣間獨禮座一回

一 案衣黑衣之無名刺案樂

御免

牛込

養 深 寺

當時着衣

麻布

曹 溪 寺

當時着衣

右二々寺任職才子讓

一 任職沙礼等之

一 年頭沙礼正月廿六日大廣間獨禮座一回

一 案衣黑衣之無名刺案樂

御免

三田

當時是衣身熱於山 龍源寺

赤坂

目 杉泉寺

浅卓

目 金龍寺

小日向

目 龍泉寺

谷中

目 天眼寺

吾中

目 南泉寺

深川

目 栗津寺

岩谷

目 道林寺

庄布

目 光林寺

野火田

目 平林寺

下野園地原

目 雲霞寺

常列麻島

目 根本寺

下野園地原

目 真禪寺

上列松井田

目 崇徳寺

下野園地原

目 淨園寺

當時是衣身熱於山  
五年同出  
常衣是衣身熱於山

當時是衣身熱於山  
五年同出

當時是衣身熱於山  
五年同出  
常衣是衣身熱於山

當時是衣身熱於山  
五年同出  
常衣是衣身熱於山

當時是衣身熱於山  
五年同出  
常衣是衣身熱於山

當時是衣身熱於山  
五年同出  
常衣是衣身熱於山

高時長衣身起礼  
七年四月廿六

甲列

長 禪 寺

高時長衣身起礼  
七年四月廿六

甲列

法 泉 寺

上列小幡

高時長衣身起礼  
七年四月廿六

白金

紫 福 寺

高時長衣

甲列

妙 玄 院

高時長衣  
七年四月廿六

月 江 寺

牛込源松寺改申

芳 心 院

高時長衣

右廿三子寺 任職身子張

一任職身起礼

一年任職身起礼 三月六日大慶乃獨杉院一同

但身衣一白一惣礼一白

一紫系一白一惣礼一白

卯免

正月六日惣禮之分

治谷

吸 江 寺

治谷

鷲 峰 寺

麻布

大 法 寺

小石川

桂 林 寺

三田

正 覺 院

大橋

壽 昌 院

白金

奥 禪 寺

目録

長徳寺

治谷

東北寺

深川

陽岳寺

駒込

徳禅寺

池端

正廣寺

池端

東淵寺

池端

永昌院

呂谷

松巖寺

赤坂

圓通院

白金

重秀寺

麻布

春桃寺

浅草

桃林寺

浅草

智光院

谷中

天竜院

谷中

雲梅院



下谷合杉

正燈寺

淺草

長徳院

牛込中里村

宗傳寺

下谷

仙竜寺

下谷合杉

東源院

池端

休昌寺

駒込

圓通寺

淺草

養安寺

中郷

東盛寺

中郷

天祥寺

中郷

正嶺寺

中郷

昂現寺

谷中

端松寺

下谷合杉

圓光寺

小石川

是照院

下谷全杉

源院

駒込

勝林寺

谷中

長安寺

深川

練川寺

谷中

海藏院

常陸國完戶

高乾院

甲州神取村

勝永寺

上野國高梨

五年目出

七年目出

五年目出

上野國大柵

長勝寺

龍母寺

武列山

勝光寺

武列勝田

保亭寺

上総國長柄山

眼藏寺

上総國長山

淨蓮寺

上総國太田長

圓照寺

下総國高井村

高源寺

七年目出

七年目出

七年目出

七年目出

七年目出

三年目出

五年目出

七年目出

下総國白井

圓惠寺

下総國高野村

七年目出

禪福寺

下総國高野

七年目出

海禪寺

下総國大庭村

七年目出

邑禪寺

下総國大柳町村

九年目出

樹林寺

武州廣志村

七年目出

大興寺

武州八幡

七年目出

玉藏寺

上野國里南村

七年目出

傳宗寺

上野國相村

五年目出

沐勒寺

甲列

七年目出

圓光寺

甲列

七年目出

傳成寺

甲列

七年目出

東光寺

甲列

七年目出

圓藏院

甲列

七年目出

南松院

甲列

九年目出

天輪寺

九年目出

甲列

建志寺

九年目出

甲列

松岳寺

七年目出

甲列

永岳寺

右七指ノ寺院沖府内各園ノ年以法礼  
黒衣ノ月二月六日始行出

一 紫衣ノ威以濟名相頼以与大廣間獨礼同

乘輿

佛免

三月十五日

三列小松尔

東觀音寺

高野寺  
四年目出

駿列

深海寺

高野寺  
四年目出

右二ヶ寺任威才子讓

一 入院法禮云々

一 年頭法禮正月十五日佛白書院獨禮

但紫衣黒衣ノ云々列定一席也東觀音

寺不來年ノ云々代僧台園新上

一 佛眼寺云々

甲列

惠林寺

高野寺  
四年目出

右任威才子讓

一 入院法禮佛白書院獨禮佛眼寺云々

一 年頭法禮二月十五日佛白書院獨禮

但紫衣黒衣ノ云々列定一席

一 佛眼寺之圃老年社法禮

二月十五日 湯次一回之内

三列

五年目出

天恩寺

三列

五年目出

寶相寺

三列

七年目出

正宗寺

遠列

七年目出

竜潭寺

重列

八年目出

宝珠寺

重列

八年目出

貞永寺

重列

七年目出

栴亭寺

重列

七年目出

平田寺

重列

七年目出

清見寺

重列

五年目出

寶泰寺

重列

七年目出

誓願寺

甲列

七年目出

觀音寺

右十二ヶ寺任威子子孫

一 入院湯禮寺

一 年願湯禮正月十五日湯次一回

一 紫衣三威信得玄相願湯白書院獨禮

一回

正月廿八日

送列

一代一度

願滿寺

右任職弟子禱

一任職法禮之

一年願法禮正月廿八日法次一回

一法禮之

一常衣成口得名相願以所白書院獨禮座一

回

三月十日

奥州柳津

圓藏寺

五年日之出

右任職弟子禱

一任職法禮之

一系上法禮三月十日法次一回

一法禮於抄(開)寺社奉行中渡

右一汎行我年車道徳。依白常衣相進

曹洞宗常衣之寺院

越前國

越前寺

常衣

永平寺

右任職於所白書院法依願老中列姓  
被作渡

一任職之法禮所白書獨禮

一 御暇於柳之間考中被作  
一 年願沙禮寺

能為固本寺

宗衣 總持寺

右任藏輪番持沙禮寺

一 年願沙禮二月十五日代持沙禮寺

一 沙暇於柳之間考中被作

一 年願沙禮寺

一 御暇於柳之間考中被作

海家大德寺

山城業野

宗衣地 大德寺

右名塔頭宗衣和尚考月苑輪番

一 宗衣沙禮寺

大德寺塔頭考八十日考月苑宗衣寺

院考考考考

考考考

考松院

考考

同 正受院

同 玉林院

同 黃梅院

同 寸松院

同 威德院

右和考之推奉考一流法園考院宗

衣出世

呂川

紫衣地

東海寺

右之任職輪番持

一輪番(沙禮)白書院獨禮

一年願沙禮(正月六日)白書院獨禮

一系部任持(和尙)白書院法縁願

沙願堂中被修渡

東海寺塔以十七ヶ年(旧紫衣)平院為付

ヶヶ寺

高時紫衣

高深院

呂谷

祥雲寺

紫衣

右任職塔以(輪番)持

一任職(沙禮)無之

一年願沙禮(正月六日)大廣間獨禮(座)同

祥雲寺塔以十七ヶ年(旧紫衣)平院為

時(ヶヶ)寺

高時紫衣

靈泉院

右之高時祥雲寺輪番(天現)寺為寺

之相勳

高時紫衣

香林院

右之高時東海寺輪番(和)知

廣尾

高時紫衣

天現寺

麻布

高時紫衣

天真寺

谷中

高時紫衣

條江寺

赤坂



高野山  
年以沙禮寺

種 德 寺

右四ヶ寺任威才子孫

一入院沙禮寺之

一年頭沙禮茶衣之八相親大廣間獨禮

座一同是名(寺)熱禮

一茶衣之八宗傳茂相親日

下谷

廣 德 寺

高野山

右任職於寺社奉外所下禮

一任威沙禮佛白書院獨禮

一年頭沙禮正月六日大廣間獨禮座一同

但思衣之(宗)與

相列湯中

早 雲 寺

高野山

右任職才子孫

一入院沙禮寺

一年頭沙禮正月六日大廣間獨禮座一同所

服寺

但五年月日

下統國小金

萬 後 寺

高野山

右任職才子孫

一入院沙禮寺

一年頭沙禮正月六日茶衣之八相親大廣間

獨禮座一同思衣之(宗)與

丹波

蟠 竜 庵

高野山

丹列招示

德 源 寺

日

但列出石

日

宗鏡寺

和列小折生

日

法徳寺

紀列結中

南村墨衣

妙解寺

紀列字土

日

恭雲寺

筑列情多

日

宗福寺

肥前平戸

日

正宗寺

寺後石田新海村

日

安國寺

同助土分村

日

國分寺

常列我城於水戸古家

日

常照寺

右十卷寺行藏五年法禮上由時  
至衣山坊進一葉衣出世一為寺院序  
序

禪宗五山派

五山無依

第壹

金地院

右行藏於河白書院法孫頼光中列序  
行信

一 行藏法乳河白書院獨繼

一 右行繼相傳以後於河白書院法孫頼光

中列在也祿職矣 師誕生日沙形街月  
次出法(派)法(派)

一 存(後)也祿官職之

一 師朱卡頂戴之

一 也祿職(沙)禮(師)白書院獨札

一 恒職後物(沙)系(師)唯(師)沙(師)白書院

一 沙(師)類(老)中(列)在(被)後(派)

一 上(系)後(以)居(代)沙(札)師(白)書院(獨)札

一 師(唯)於(師)向(老)中(被)作(派)

一 弟(府)沙(札)師(白)書院(獨)札

一 五(山)出(世)

公(指)頂(戴)之(身)八(於)師(白)書院(沙)類(老)

中(列)在

師(在)判(三)方(載)書(中)沙(派)

師(朱)卡 師(寫)卡(去)沙(廣)蓋(言)沙(進)物

番(插)也

一 年(類)沙(禮)師(白)書院(獨)禮

京(出)山(之)上(赤)山

派(紫)衣(地)

南(禪)寺

之(高)少(紫)衣(地)以(守)

京(出)山(才)一(塔)職

淺(紫)衣(地)

天(竜)寺

塔(以)

高(時)紫(衣)

妙(知)院

回(形)

高(時)紫(衣)

壽(寧)院

右(天)竜(寺)

公(帖)頂(戴)身(紫)衣(总)用(恰)雷(如)知

京(出)山(才)二(系)於

高(衣)地

相(因)寺

高時紫衣

塔以

慶雲院

右南禪寺

右帖頂戴身紫衣忌用相國寺檢番任  
如初

系六山才二高山

身衣地

建仁寺

塔以

高時紫衣

西足院

右南禪寺

右帖頂戴身紫衣忌用建仁寺檢番  
任持如初

系五山才四六和方略

身衣地

東福寺

塔以

高時紫衣

南昌院

右南禪寺

右帖頂戴身紫衣忌用東福寺檢番  
任持如初

系五山才五六和方略

身衣地

萬壽寺

右高時南禪寺

右帖頂戴紫衣忌用之塔以

十刹系款

等免寺

十刹破職

條川寺

十刹山

真如寺

十刹系款

安國寺

十刹碑

奕幢寺

十刹志

普門寺

十刹系

廣光寺

十刹鳴

妙光寺

任職年額涉禮寺

出世想代為涉禮寺(在法華堂六柳白)

書院獨礼旁衣西堂七回行

一佛順各三

卜野國建利

學校

右任職於河白書院也係類老中列  
庭亦作酒

一任職涉禮河白書院獨礼

一年以涉禮河白書院獨禮

一河順於柳之間老中

法山寺

南禪寺附庸

光雲寺

系由禪寺塔

德松寺

京南禪寺末

山城國一系寺村

圓光寺

右三寺任職金比院

一任職涉礼河白書院獨禮

一 所唯於柳之間老中  
一 年頭沙礼寺

系南禅寺末

伊織園胡然藏

金剛澄寺

右住藏金地院

一 住藏之沙礼寺白書院獨禮

一 所唯於柳之間老中

一 年頭以石代沙禮尤老礼寺

一 沙唯於柳之間寺社

系南禅寺末

帝陸園古因々

清音寺

右住藏金地院吟味上水戸殿

正沙禮

一 住藏沙禮寺

一 年改沙礼正月廿六度間獨禮庭一月以

順去之

但三年日出

系桐園寺末

山城園山

麻苑寺

右住藏金地院

一 入院沙禮沙白書院獨禮

一 所唯於柳之間室中彼沙禮

一 年頭沙禮寺

大和六路

系福寺塔以

南明院

右住藏金地院

一任職法禮淨白書院獨禮

一淨服於柳之間老中被作淨

一奉願法禮二月十五日淨白書院獨禮

但三年目六

一淨服於柳之間分中被作淨

一淨服於柳之間老中被作淨

大和古略

東福寺末

勢列三覽

密藏寺

右任職金地院

一繼目法禮淨白書院獨禮

一淨服於柳之間寺社奉願淨

一奉願法禮寺之

大和古略

東福寺末

淨佛神戶

龍光寺

右任職金地院

一任職法禮寺

一奉願法禮正月六日大廣間獨禮

淨服寺

但八年目六

右寺任職第壹改牙第壹夜出世

公帖被下

一右第壹寺者南禪寺大庵寺

十一

右

淨佛神戶壇以無法末河内僧侶

才之遊出世第壹夜出世

日蓮宗身史派

甲列

乙列

紫衣

久遠寺

右任藏山田評議之上相定

一代之紫衣之系

初許以分入法(御)紫衣之用

入院涉禮(白書院)獨禮

一御暇於柳之間老中(白書院)

一年頭涉禮三月廿八日御(白書院)獨禮

此六年同出

一御暇於柳之間老中(白書院)

紫衣

紫衣

妙顯寺

右任藏寺中每未以評議之上相定

一白練衣着(用)入院後為三年衣相立

一初許有(以)白紫衣之用

一任藏涉禮(白書院)獨禮

一御暇於柳之間老中(白書院)

一年頭涉禮(白書院)



日蓮宗本國寺流

系初

本寺

紫衣

本國寺

右位藏波玄評藏之菊亭家也同相定

一大僧正相進以去緋衣看用寺指

沙羅

一住藏沙禮淨白書院獨礼

一淨眼於柳之間老中沙波

一年以沙禮淨

日蓮宗池上流

池上

本寺

紫衣

本門寺

右位藏於淨白書院淨極類老中列在

沙波

一住藏沙禮淨白書院獨禮

一年以沙禮淨三月六日淨白書院獨礼

沙

寛政三申年二月廿日唯四松傳及長谷川源兵衛等  
言申越々申録身別在紀于越前札に皇正一日登  
城不付以外申録身別在紀于越前札に皇正一日登

御忘中

御盡付 御帳中

御宣旨係系消々申録身別在紀于越前札に皇正一日登

御書面 御忘中 御帳中 御宣旨係系消々申録身別在紀于越前札に皇正一日登  
御宣旨係系消々申録身別在紀于越前札に皇正一日登  
二月  
相取 法務寺

御宣旨係系消々申録身別在紀于越前札に皇正一日登  
御宣旨係系消々申録身別在紀于越前札に皇正一日登

寬

御殿中

御官上 諸家諸子之孫有(以)年

御殿中

御官上 諸家諸子之孫有(以)年

御殿中

御門因因有(以)年

御殿中

御官式日英諸家諸子之孫有(以)年

御官上 諸家諸子之孫有(以)年

御官上別當

二月

莊嚴院

御殿中

御靈全法系諸子之孫有(以)年

右方 御殿中 諸家諸子之孫有(以)年

御殿中 御殿中 御門因因有(以)年

之事

右方 御殿中 御殿中 御門因因有(以)年

御殿中 御殿中 御門因因有(以)年

常憲陸保  
有德陸保 沙利高  
有德陸保

大慈院

中二月

有德陸保 沙利高  
有德陸保

津梁院

寛政十二申年二月廿日自毛内合駿河より清  
く右より左の表川越来りて因合より舟は丸船

覺

御宮 御靈合誌大石方自持（長持来り）御  
太刀目縁より自持以来に造行向近所より  
又八自身持来り  
御宮 御靈合誌大石方自持（長持来り）御  
太刀目縁より自持以来に造行向近所より  
又八自身持来り

一 御宮より自持より御太刀目縁持来り  
勅額より宮仕清九出所極与波傍清  
御神前より納来り清名所在遊沙所

松平清正大御友  
松平在系守友  
松平清政守友

松平伊豫守

松平大和守

松平豊後守

松平安房守

松平大膳守

後堂和泉守

榊原武敏守

酒井雅樂守

右記名者自松平伊三太衛及松平伊東守及

先捨与清康門与官仕清与清康守

後僧清与

所神前与清与事也

一右并法大右法太刀目録自清与若又

与右目録和清与清与使与也

咸以事也清与世後清与守也

所官以行高

莊 巖 院

二月

所官 所靈自与法大右方自抄与

采法与方目録自清与采与和清所近

以与采与也

右与清自清与法与方目録自清自抄

右与清自清与法与方目録自清自抄

右与清自清与法与方目録自清自抄

又自身抄采与

所官 所靈自与法大右方自抄与

右与清自清与法与方目録自清自抄

右与清自清与法与方目録自清自抄

右与清自清与法与方目録自清自抄

右与清自清与法与方目録自清自抄

引續系備之書少在也

大猷陸孫行司

東漸院

中  
二月

最者院孫  
澄明陸孫

津梁院

河宮 淨靈屋法大若方自淨之節

上節淨太刀目録之自淨之節淨利之節

進之方如法淨尋之章

右言淨自淨之節淨太刀目録之日

高日之方淨利之節淨利之節

高利之節淨利之節淨利之節

又自淨之節

淨宮 淨靈屋之書之段傳之書

自淨之方之書之章之書

右言淨自淨之方之書之章之書

系備系備之書之章之書

段傳段傳之書之章之書

續系備之書之章之書

常憲院孫

有德院孫

孝恭院孫

中  
二月  
大 意 院

寛政十三年二月

滋谷合其情利向東禰寺石鳥居建替序有桐形同  
法殿内在東山大取石鳥居右形未可也

山王一之鳥居二之鳥居寸法併等  
段以系初紙終出西邊以序

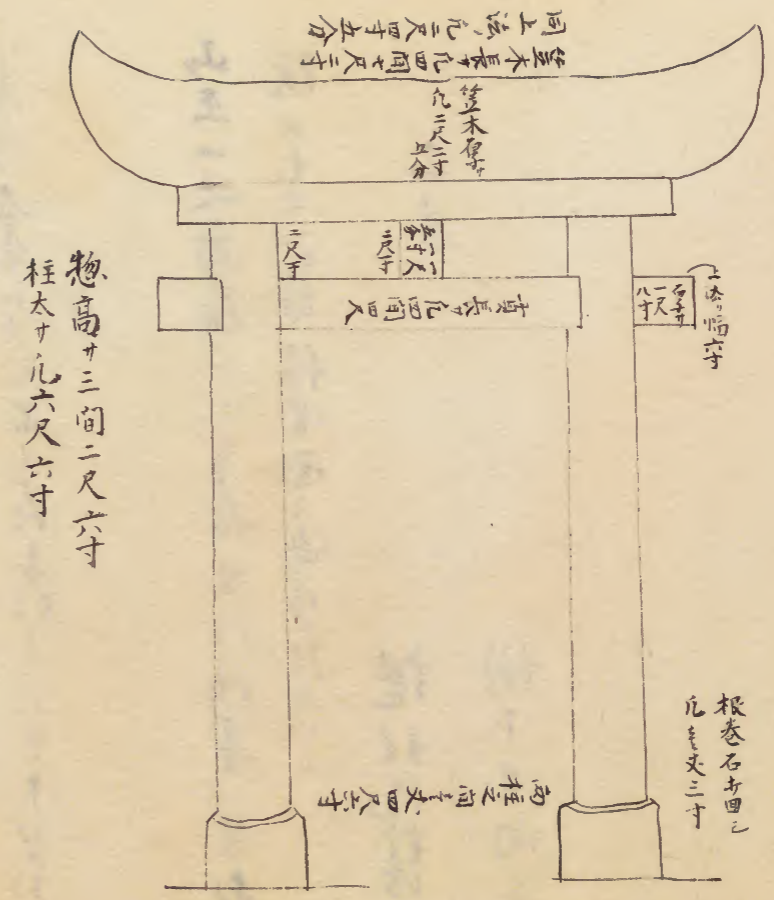
三月

親理院控序

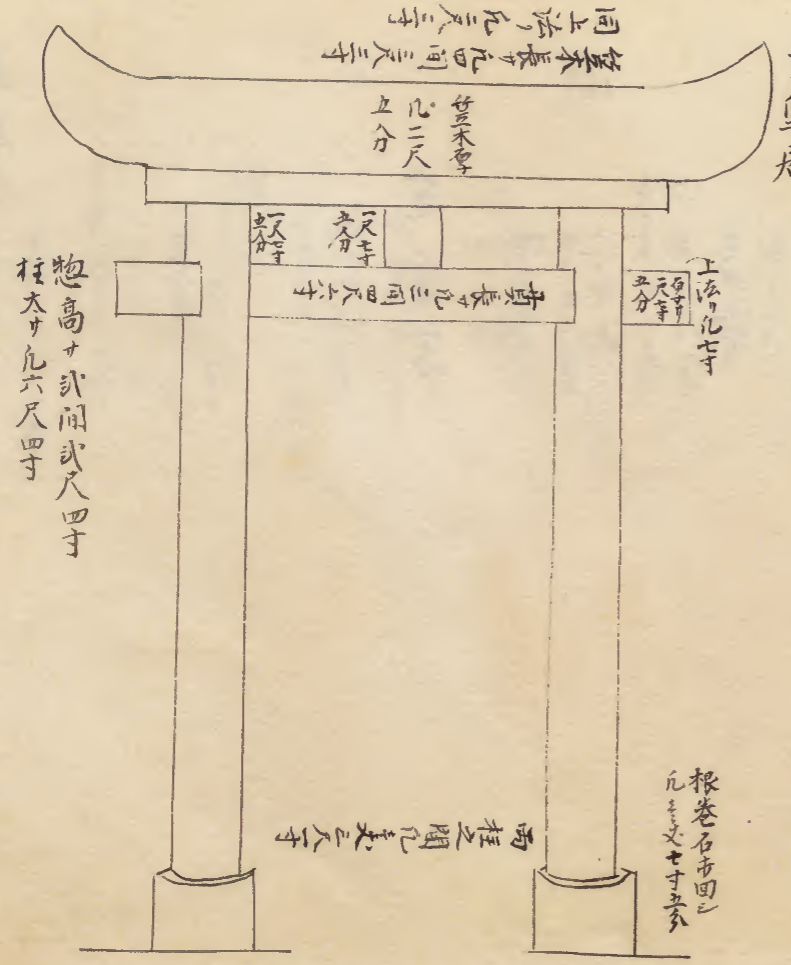
樹下日向寺

山王 一之鳥居  
二之鳥居 繪圖而

一、鳥居



二、鳥居





是神明

石鳥居

明<sub>三丈二尺</sub>廻<sub>四尺寸</sub>  
高<sub>三丈六尺六分</sub>

二重石土臺

上中<sub>二尺寸</sub>下中<sub>二尺寸</sub>  
上中<sub>四尺寸</sub>

是愛宕

同

明<sub>三丈六尺</sub>廻<sub>四尺寸</sub>  
高<sub>三丈八尺六分</sub>  
中<sub>三尺九寸</sub>高<sub>九寸</sub>

西久保八幡

石鳥居

明<sub>三丈二尺</sub>廻<sub>四尺寸</sub>  
高<sub>三丈六尺六分</sub>  
二重石土臺  
中<sub>三尺</sub>高<sub>九寸</sub>

三田八幡

同

明<sub>三丈二尺</sub>廻<sub>四尺寸</sub>  
高<sub>三丈六尺六分</sub>  
二重石土臺  
中<sub>三尺</sub>高<sub>九寸</sub>

高輪庚申堂

同

明石  
四尺七寸  
高五尺八寸五分

永田馬場山王

石香

同  
四尺七寸  
高五尺八寸五分

同

同

明石  
四尺七寸  
高五尺八寸五分

神田明神冢

同

明石  
四尺七寸五分  
高五尺八寸五分

湯嶋天神冢

石香

同  
四尺七寸  
高五尺八寸五分

同

淡草藏前天王

明石  
四尺七寸五分  
高五尺八寸五分

大

湯乃天神裏門

木高居 明丈五尺八寸  
四寸二分七寸

高丈六尺一寸五分

下谷廣徳寺稲荷

木高居 明丈四寸四分  
四寸二分四寸

高丈四尺八寸五分

淺草雷門内大神宮

同 明丈五尺八寸  
四寸二分六寸四分

高丈四尺八寸五分

同所聖天

同 明八尺七寸  
四寸二分八寸

高丈七寸五分

同所藏前八幡

木高居 明丈四尺三寸  
四寸二分七寸四分

高丈四尺一寸五分

淺草才六天

同 明丈五尺八寸  
四寸二分八寸

高丈四尺八寸五分

三田春日宮

同

明正文三尺  
早正三尺八寸  
高正三尺八寸五分

赤坂氷川

本多居

明正文三尺九寸  
早正三尺八寸  
高正三尺八寸五分

同所

同

明正文三尺  
早正三尺八寸  
高正三尺八寸五分

×

湯涌天神

唐綱倉居

明正文三尺  
早正三尺八寸  
高正三尺八寸五分

小石川白山権現

同

明正文三尺七寸  
早正三尺八寸五分  
高正三尺八寸五分

根津権現

同

明正文三尺七寸  
早正三尺八寸五分  
高正三尺八寸五分

淺草觀音地内西宮稻荷

同

明堂文四尺八寸  
也尺八寸  
高五尺八寸五分

淺草觀音地内慈谷稻荷

唐桐香居

明八尺三寸  
也尺八寸  
高五尺五分

同所

同

明堂文七尺七寸  
也尺七寸七分  
高五尺八寸五分

芝神明宮

石燈籠

也五尺二寸  
二重地幅六角

式

芝愛宕

石燈籠

也五尺八寸  
二重地幅

式

同所

同

也五尺二寸  
二重地幅  
一重八寸  
二重八寸  
三寸八寸  
三寸八寸  
高五尺三寸

式

三田春日宮

同

惣高八尺一寸  
二重地物  
一中三尺一寸五分  
高九寸  
二中三尺  
高五尺八寸

式

三田八幡

石燈籠

惣高七尺一寸五分  
二重地物  
一中三尺八寸  
高九寸  
二中三尺一寸  
高九寸

式

同所

同

惣高八尺  
二重地物  
一中三尺七寸  
高九寸  
二中三尺  
高五尺八寸

式

高輪如來寺地中

石燈籠

惣高五尺六寸  
二重地物  
一中四尺  
高五尺  
二中三尺  
高五尺六寸

六ツ

高輪庚申堂

同

惣高六尺

式

赤坂氷川

同

惣高七尺八寸  
二重地物  
一中三尺六寸  
高五尺八寸  
二中三尺  
高五尺八寸

式

赤坂氷川

石燈籠

寛文六年  
一重地輪  
一重二尺  
二重六寸五分  
三重六寸五分  
四重九寸

永田馬場山王

同

寛文九年  
一重地輪  
一重二尺二寸  
二重二尺八寸  
三重二尺八寸  
四重二尺八寸

同

寛文九年  
一重地輪  
一重二尺八寸  
二重二尺七寸  
三重二尺七寸  
四重二尺七寸

永田馬場山王

石燈籠

寛文九年  
一重地輪  
一重二尺八寸  
二重二尺七寸  
三重二尺八寸五分  
四重二尺八寸五分

神田明神

同

寛文九年  
一重地輪  
一重二尺八寸  
二重二尺八寸  
三重二尺八寸  
四重二尺八寸

湯島天神

同

寛文九年  
一重地輪  
一重二尺八寸  
二重二尺八寸  
三重二尺八寸  
四重二尺八寸

小石川白山権現

石燈籠

惣高七尺六寸  
土重地幅  
四尺七寸五分  
五寸七分

五寸

根津権現

同

惣高七尺六寸  
土重地幅  
四尺七寸五分  
五寸七分

五寸

淺草観音地内西宮稲荷

同

惣高七尺六寸  
土重地幅  
四尺七寸五分  
五寸七分

五寸

淺草観音地中三社権現

石燈籠

惣高七尺六寸  
五寸

淺草六天

同

惣高七尺六寸  
土重地幅  
四尺八寸  
五寸七分

神田明神

○唐銅燈籠

惣高七尺六寸  
土重地幅  
一尺四寸五分  
一尺四寸五分  
二尺三寸八分  
三寸七分



神田明神

唐洞燈籠

惣高五尺  
二重地場  
中四尺八寸  
高五尺八寸  
式巾三尺九寸  
高七寸六分

湯島天神

同

惣高五尺九寸  
二重地場  
高五尺八寸  
式巾三尺九寸  
高七寸

根津権現

同

惣高九尺一寸  
三重地場  
高九尺一寸  
式巾三尺七寸

浅草二王門前

唐洞燈籠

惣高九尺一寸  
一重地場  
高九尺一寸  
式巾三尺八寸

同所観音前

同

惣高九尺一寸  
三重地場  
高九尺一寸  
式巾三尺七寸

同所徳谷稲荷

同

惣高七尺六寸  
三重地場  
高七尺六寸  
式巾三尺六寸

法華藏前天王

唐銅燈籠

長七尺或寸五分  
口徑一尺四寸  
高九寸五分

或ツ

芝愛名

同

長五尺或寸

或ツ

芝愛名

同

長五尺或寸

二重地輪

長中六尺八寸

長中三尺四寸

或ツ

護國寺

唐銅燈籠

長九尺  
長地輪  
中口尺  
長五尺

六ツ

谷中感應寺

同

長五尺或寸

或ツ

三神明

石手洗鉢

長六尺  
高八寸或寸五分  
長或八寸

豆愛宕

石手洗鉢 長四尺  
高八尺一寸  
横七尺七寸

同形

同 長四尺  
高八尺一寸  
横七尺

西久保八幡

同 長五尺  
高八尺一寸  
横八尺一寸

三田春日社

石手洗鉢 長三尺一寸  
高八尺一寸  
横七尺九寸

同形八幡

同 長四尺  
高八尺一寸  
横七尺一寸

高掬庚申堂

同 長三尺八寸  
高八尺一寸  
横七尺九寸

赤坂氷川

石手洗御長八寸  
高或八寸七寸  
横或八寸七寸

永田馬場山王

同  
長六寸五分  
高或八寸  
横或八寸五分

小石川白山権現

同  
長八寸  
高或八寸五分  
横或八寸五分

根津権現

石手洗御長六寸五分  
高或八寸五分  
横或八寸五分

下谷廣徳寺稻荷

同  
長六寸  
高或八寸五分  
横或八寸九寸

浅草観音地内

同  
長六尺  
高三尺  
横二尺

淺草太神宮

石手洗所  
長八寸五分  
高八寸五分  
横八寸五分

同所二王門外

同  
長六尺  
高三尺  
横三尺

同所西宮稻荷

同  
長或八寸五分  
高八寸五分  
横八寸五分

同所觀音所

同  
長八尺  
高三尺  
横四尺

淺草藏茶八幡

同  
長四尺  
高八寸五分  
横八寸五分

同所天王

同  
長二尺九寸  
高七尺九寸  
横八尺九寸

儀第才六天

石子洗神 長六尺  
高八尺  
横三尺 是

儀第池所門外

同 長六尺  
高八尺  
横三尺 是

神田明神

唐桐子洗神 長六尺  
高八尺  
横三尺 是

湯瀨天神

同 長三尺  
高八尺  
横三尺 是

儀第門外

同 長六尺  
高八尺  
横三尺 是

同親音堂前

同蓮子洗神 長六尺  
高八尺  
横三尺 是

護國寺本堂坂下

同子洗鉢 惣高五尺八寸 式ツ

谷中感應寺

唐洞子洗鉢 惣高六尺八寸 式ツ  
口一尺五寸 地幅石中六尺八寸

淺草新寺町東岳寺

○石寶蓮 卯塔 惣高五尺四寸八寸 式  
石一尺五寸 長五尺八寸  
地幅石中三尺八寸

淺草三福院

石寶蓮 卯塔 惣高七尺二寸 式  
石一尺四寸 長三尺八寸  
地幅石中三尺八寸

同觀音地中間魔堂

同 惣高五尺六寸八寸 式  
石一尺五寸 長九尺  
二重地幅石中七尺  
上中三尺八寸  
高八寸

同藏茶八幡

同 惣高五尺八寸 式  
石一尺五寸 長六尺  
二重地幅石中四尺八寸  
上中三尺七寸  
高七寸

高輪如來寺

石寶篋卵塔

惣高五丈二尺  
四層地輪  
一層九尺  
二層八尺  
三層八尺  
四層八尺  
五層八尺  
六層八尺  
七層八尺  
八層八尺  
九層八尺  
十層八尺

三田中道寺

惣高五丈七尺  
三層地輪  
一層八尺  
二層八尺  
三層八尺  
四層八尺  
五層八尺  
六層八尺  
七層八尺  
八層八尺  
九層八尺  
十層八尺

同

谷中感應寺

唐洞寶篋卵塔

惣高五丈五尺  
四層地輪  
一層八尺  
二層八尺  
三層八尺  
四層八尺  
五層八尺  
六層八尺  
七層八尺  
八層八尺  
九層八尺  
十層八尺

本所回向院

惣高五丈二尺  
但地輪  
水石見込

同

淺草觀音地中法務社

惣高五丈八尺  
石五尺四寸  
長五丈八尺八寸  
三層地輪  
一層八尺  
二層八尺  
三層八尺  
四層八尺  
五層八尺  
六層八尺  
七層八尺  
八層八尺  
九層八尺  
十層八尺

同



三甲六尺  
高六寸

丸山新町淨心寺

○題目石碑

表巾七尺八寸  
横巾八寸  
題高七尺八寸  
三寸地幅  
一 七尺八寸  
二 七尺八寸  
三 七尺八寸  
高七尺八寸

小石川白山新町常檢寺

同

表巾七尺八寸  
横巾九寸五分  
題高七尺八寸  
三寸地幅  
一 七尺八寸  
二 七尺八寸  
三 七尺八寸  
高七尺八寸

夏毛岩

○石碑

表巾七尺八寸  
横巾八寸五分  
題高七尺八寸  
三寸地幅  
一 七尺八寸  
二 七尺八寸  
三 七尺八寸  
高七尺八寸

高檢如來寺

同

表巾七尺八寸  
横巾八寸五分  
題高七尺八寸  
三寸地幅

同所

石碑

題高八尺一寸  
三寸地幅  
一 八尺一寸  
二 八尺一寸  
三 八尺一寸  
高八尺一寸

高輪如來寺

同

考与上人字

寺

寛政十二未年三月廿二日伊豆及上野河原若近達  
之翌十二申年二月八日兼付所由田中右藏山下家  
付以中一翌九日湯同人以日人如是

越後國高田長恩寺初化新成付上上書付

書面類  
出後多承知仕以  
申二月八日

土井大炊頭

越後國高田

長恩寺

石相頼以名法堂社及大破被護自力能  
叶之付若住達岸出羽信濃二ヶ國初化  
佛免之儀寺頼以寺之已年出羽一國初  
化

佛免被威下在雪深十國柄在冬中寺巡行  
經古威之付去年年々東申年近三ヶ年之

間二月、九月進巡行

御免被 作付去年年々頼之期月巡行

仕以切丸高喜中々先任病氣身見合在

上高秋中病死仕以付高年一向巡行

石仕以依之何卒先任頼 御免被成下

相残以筆所(兼申年、酉年進二ヶ年商

二月、九月進巡行 御免被成下後頼

以

右、通頼出以付相残以、去年年々頼之期月

先任合々巡行仕以以在當春中々病氣、

見合在立以心高秋、或り病死仕以頼年

限之内去年年々巡行仕以而已、自過年頼

切物未一向相残石、以限中之石、或已

年相頼以良破損仕以、或成下、石調以、

上 御免被作付以、或高付、切化是

貞元、沙丸、高、新規、頼以、或遠以、巡

行年限、向先任病死仕以、後任、進頼以、出

先例、高、所、右、定、負、石、物、上、出、相、一、圓

相殘以、所、二ヶ年、間、二月、九月、進、頼、每

切化 御免被作付以、或高付、切化是

十二月

寛政十二申年二月十七日於 湯城大炊頭  
湯五同十九日持上撥河与口也

甲列下岩邊村言捕山盜賊之者乃藏一併  
吟味伺書取調高由相談也  
之程在位多以私字度存也

二月 土井大炊頭

松平周防守  
脇坂淡路守  
榎村駿河守

甲列下岩崎村に捕らるる盗賊一名の首一件を味何書

去丹大炊頭

當三月廿七日法後以成以田安永老上

甲列下岩崎村に捕らるる盗賊一名の首一件を味何書

一件を味何書

田安領知

甲列八代於子米寺村

百姓

新く出羽形

無名

無名

刀藏

中武格七藏

申二月六日入牢

此日藏儀因於合又々々人立有百姓家入  
口入り多を候と因解却之或ハ土藏若希候  
と候り三々布立入其介メリ之場不之候有立  
々布立衣類及物未之候と盜名以候不而之申定  
之通死罪一之申

有之の吟味は如沙料不甲列巨摩郡西

下桑村百姓為伴之親も先年お果時

とある言はれは如身持致時と去る五年

居村欠落いへて之意成可く日雇種織練

度儀ハ洋物形仕覺去る辰年十二月より因

國山梨郡猪沼若紐金助之清方の子向守云出

去る年七月迄相勤唯取子米寺村六郎老

伴友藏儀勤之清方ハ相勤傳單之付其

之より友藏世信若子米寺村百姓形之

奉之格出居宅明キ多ハ之相勤之上

當今借請去未正月、任居、  
屋、  
風惡心出、  
神内川村、  
日、  
盜取、  
次、  
同六月、  
見世、  
盜取、  
仍、  
六月、  
夜五時、  
人、  
群外、

八、  
岩、  
不、  
及、  
方、  
川、  
近、  
在、  
方、  
賊、  
村、  
土、  
遊、  
持、  
傳、

下岩崎村に於ては、以て其の捕獲に當りては、  
同本亦盜魁事として、因於其處に於て  
其の存したる者、其の吟味に於て、其の書  
に、其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の存したる者、其の吟味に於て、

此文は、其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、

一、其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、

一、其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、

以上、其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、  
其の藏所、其の行方、其の變り、其の  
後、其の存したる者、其の吟味に於て、

一向石仔少也紀方家家一渡心入の如  
 こ味味いしはしに少たはる少くも  
 友藏減刀屋ハ何方し人にも入るに  
 宿のこ元元し不相紀請合人の成勢  
 明中家と備り世話の一其上村役人  
 不十少教月手直の版石坊有と料銭  
 五貫文長百姓三人俄勢と忠明中家  
 二元元し不知刀獲教月手直と不好打  
 以版等例の石坊有と料銭三貫文  
 一十少多佐野豊和子と直在七仕  
 是又質屋全在儀盗物と石仔版と相違  
 等儀意之被入の形と石直並刀獲  
 度と質物取版ハ多相違味も滑り  
 和子一定例の替方豊和子と直在  
 山直盗物取版以上分直盗之更と和直  
 直是

又下直直也

右吟味仕少書直直は直は直直直直直  
 札附於公書何し直直直直直直直直直

申月



寛政八年庚申月四日封馬度志中  
秋山杉虫之進達

甲州新居村住人方之押込  
盜賊一件有上之書付

抄后

福坂漢語

去卯十二月三日清後嘉小田安永元上之田安  
从知甲州八代級机新居村百姓茂在忠宅  
押込盗了之同知同出山梨郡小松村  
百姓候候事 事重及捕同村百姓忠宅備  
押込盗了人之心 文之休候候以知候  
鬼藏并川清平右馬代官不同候事  
田村安治若上席商人候事 左殿候事  
去卯十月十日 幸候候候候候候候候候

盗心事一以事 幸候候候候候候候候候  
上之候候候候候候候候候候候候候  
吏候候候候候候候候候候候候候候  
合或步候一又文余脇候候候候候候候  
白状候候候候候候候候候候候候候  
候候候候候候候候候候候候候候候  
病死候候候候候候候候候候候候候  
一云若鬼藏候候候候候候候候候候  
清八川清平右馬代官候候候候候候候  
一付重以中候候候候候候候候候候  
衣形候候候候候候候候候候候候候  
質屋候候候候候候候候候候候候候  
由重之候候候候候候候候候候候候  
重之由分田安候候候候候候候候  
頼出候候候候候候候候候候候候候

彼比田安段市川橋平之通段市掛合  
別取比の事吾之席之兼知人して盗物  
質入の事一以儀之ハ事名存同部其後  
屋敷村百姓幸八院人いす一重以民之通  
方之修物通ハ帳目頼候事一取上吟味  
トテ之儀ハ口書平之通方一取儀ハ中  
之儀者儀ハ取儀ハ之儀ハ口書平儀ハ田安  
家老トテ之儀ハ之儀ハ一取儀ハ之儀ハ  
不相見存之儀ハ尚又取方ハ吟味トテ一  
難儀トテ之儀ハ科書結之儀トテ一勝尼  
場彼比代官段市外トテ其儀トテ一取  
定奉儀トテ其儀ハ證人トテハ田安段市  
ニあわし之儀トテ其儀トテ田安家老トテ其儀  
吾之席之儀トテ其儀トテ其儀トテ其儀  
定例トテ其儀トテ其儀トテ其儀トテ其儀

又由幼定事ハ相違儀トテ其儀トテ其儀トテ  
儀トテ其儀トテ其儀トテ其儀トテ其儀トテ

一 盗物トテ其儀トテ其儀トテ其儀トテ  
屋敷ハ其儀トテ其儀トテ其儀トテ其儀トテ  
吟味何書トテ其儀トテ其儀トテ其儀トテ  
通トテ其儀トテ其儀トテ

辰四月

寛政十一年未十月廿二日伊豆吉原<sup>大塚</sup>立合直  
達同三月七日兼井花田同一人分四人<sup>下北</sup>と一  
は渡り別承付<sup>一</sup>一人と下北<sup>一</sup>

吟味者引合、内押中身蔵、  
相伺、以書付

書面引通下位  
正経勢水記  
未三月七日

評定不<sup>一</sup>座

却而吟味打一件、内下伺<sup>一</sup>の<sup>一</sup>は  
右引合<sup>一</sup>の<sup>一</sup>監<sup>一</sup>と<sup>一</sup>右好<sup>一</sup>貫<sup>一</sup>文<sup>一</sup>或<sup>一</sup>は<sup>一</sup>請<sup>一</sup>合<sup>一</sup>  
人<sup>一</sup>字<sup>一</sup>と<sup>一</sup>又<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>欠<sup>一</sup>落<sup>一</sup>者<sup>一</sup>と<sup>一</sup>右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>  
い<sup>一</sup>の<sup>一</sup>請<sup>一</sup>合<sup>一</sup>人<sup>一</sup>も<sup>一</sup>右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>  
右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>も<sup>一</sup>右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>  
伺<sup>一</sup>来<sup>一</sup>の<sup>一</sup>請<sup>一</sup>合<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>も<sup>一</sup>右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>  
伺<sup>一</sup>来<sup>一</sup>の<sup>一</sup>請<sup>一</sup>合<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>も<sup>一</sup>右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>  
伺<sup>一</sup>来<sup>一</sup>の<sup>一</sup>請<sup>一</sup>合<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>も<sup>一</sup>右<sup>一</sup>好<sup>一</sup>止<sup>一</sup>者<sup>一</sup>の<sup>一</sup>致<sup>一</sup>

先づ本人ハ其人ノ事ハ引合人教多ク其ハ  
調議方トモ事有リ在入年ノ目録ト抄書ハ  
其間ハ本人病死ホシ一由法重ニ終ル所  
あり少ト事有リハ其ハ是近ノ通抄書凡  
七年ノ一通ノ事有リハ安永六年ハ  
抄書トモ一由ノ事有リハ通抄書後ハ盗  
ト名存買取トモ又ハ買取トモ名存  
ハ引合トモ事有リト上ノ抄書トモ  
後ハ引合抄書トモ

未  
十月

寛政十未年六月廿日  
仔豆と皮と青朱と箋  
とん  
とん

引合ノ引合ノ引合ノ引合ノ引合  
引合ノ引合ノ引合ノ引合ノ引合

評定所一由

一 盗物ト名存抄書トモ

是ハ身方ト名存抄書トモ  
方名存抄書トモハ引合ノ引合ノ引合  
引合ノ引合ノ引合ノ引合ノ引合  
有明和九年年ノ引合抄書トモ  
一 盗物ト名存買取トモ

是ハ大法書トモ一由ノ引合抄書トモ  
其始末トモ事有リト名存抄書トモ



以上も定例と違ひは成らぬ所は申す所  
其紙に在りし積、以て右の事、  
以後上りし

未  
十月

安永六年十一月

松平右近將監及月書三事、以て後以て書

一 盗物出所も相犯者人、由判或去之  
下之價也取方、以て以價金、其盗物  
と以て買方、以ての所、以て定相由  
し、以て例、其由、申す、以て申す  
御事、假令、盗賊本人、其、以て合  
多、以て包、申す、以て、請書、被、合、申す、以て

其、以て、申す、以て、及、延、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て

布通、其、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
請書、被、合、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
相成、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て  
申す、以て、申す、以て、申す、以て、申す、以て

下、申す、以て、申す、以て、申す、以て

石舟豐成平二月一庭評議之書  
 朱書德方在通控  
 一盜也と不存買又ハ質之進也他人  
 其よりその尤事候成其を以今  
 之のた外子細心其以死以る諸之  
 之旨定例し進可一付以  
 右ノ通心其お控し展一之進

天明八申年七月廿九日就中事及上以  
 出好々、徳進巳同八月八日同人  
 立合進後台屋場之り之集付以  
 同人之り下ヶ水付以之、翌之九月同人之  
 進上

吟味以合之の在之候事之上以書付  
 書面以進申年平旨  
 在御事如左  
 中八月八日  
 評定所一拜

坂之團人吟味之合、在周くその又  
 多分、村有く在くその凡矣合不  
 以之、團人、之、候、お、又、以、之、  
 以、今、之、の、事、を、お、控、し、上、吟、味、以、進、  
 八日、教、お、事、之、同、之、肝、要、し、團、人、病、此

後以紙書之在少少此信事一終小簿一以  
以多今之引命之令信事一終小簿一以  
之突合之信事一終小簿一以  
中口亦分以牙何書之右引命之令信事一  
味之改以牙何書之右引命之令信事一  
取中下之引命之令信事一  
村亦今引命之令信事一  
上之引命之令信事一  
我之引命之令信事一  
之引命之令信事一  
吟味信之書取之為房之宿書一後代  
信陣屋之引命之令信事一  
亦引命之令信事一  
彼比之書為一引命之令信事一  
後之引命之令信事一

為一引命之令信事一  
一後之引命之令信事一

但落之引命之令信事一  
中引命之令信事一  
後之引命之令信事一

一引命之令信事一  
以之引命之令信事一  
乃之引命之令信事一

一引命之令信事一  
一引命之令信事一

石通寺何日也

申八月



寶曆十二年春迄中言行 是言小海  
見舟候松高名なる性来に候有右高  
其外有九子種急度候し不伺候  
竹皮候何と被地候及陳念なる  
海に幸部右候候三幸行に伺  
下より少る中通候杉年迄相候及通市  
幸行に候候

寛政十二年宣旨月二日系如及に連連日  
細く色々付以候に通及在座候以下に承付に  
同文二日發候しり少形出候人者何人由是

信列言先年六言候由是頼候  
上野頼向し出り候中言書付  
上高何と通年名承中候由是頼候  
下高何と通年名承中候由是頼候  
中言書付日  
脇坂淡路守

信列言先年別南大動進降林院持候正  
候先利由靈山院意美之志と進言先  
六宣年一と頼同年年と六十年しり小國  
筋今中園只出九列と為信縁進候  
満數仕同年八月松年右系再及に  
上り通に少座以右巡行候  
八意國系信縁成有修者凡也未信縁

為發念佛勅進仕中二六奉納寮後  
 等之收納若昔光寺大賜之堂會為  
 修理且能古様為(五重塔為建之志願  
 言代々之修持度之巡行并修仕以増大  
 四圍之矣抑堂會修後之費用亦每以  
 已右之等之塔再建之及無其之如  
 此度ハ時節初末以亦存并收納也  
 多堂會修後(子由ハ勿編者之等之  
 大塔再建之費用後大概亦調以乃  
 承之等之塔再建之修持之修持之  
 年決之法言ハ願以之若初實政六等  
 回國願上以如也法回巡行亦修收納也  
 之等之修持之修持之修持之修持之  
 願以之若初實政六等  
 之等之修持之修持之修持之修持之

為念此奉納不之由回合法何系今之  
 願以之若初實政六等  
 之等之修持之修持之修持之修持之

二月

攝休院  
 功徳院

有之通之邦既由了出以并相紀以系之  
 祀亦委仰之供ハ相念少之修持之修持之  
 之重塔之如無安之度成平堂會四修  
 以以如及於燒其修ハ永正年中再建相  
 念之修持之修持之修持之修持之  
 念之修持之修持之修持之修持之  
 念之修持之修持之修持之修持之  
 念之修持之修持之修持之修持之

發書命之修文且為年修之寺塔再建仁  
度之相類之修故事以以修凡年久矣中  
修之再建是為以例之如之清而承以承  
之四例之修故多之修以修例之修是初  
矣法以之修度也修以之重修之修之令  
伊當家以前之修修之修安以來之修百年余  
年曆之修以修今文之修大造之造之類修  
新規之修同修之事以修以修以修以修以修  
以修去修林院之修之修之修之修之修之修  
之之修凡之修之修之修之修之修之修之修  
如行執南之修之修之修之修之修之修之修  
此修相修之修以

甲四月

結書略

寬政十二申年四月廿六日伊豆守度上田中藏  
若近進同宣四月十日兼村以在甲同人等  
承傳之修之修以同人再建

按列武庫於甲山神也寺樓門也事  
彩之修之修之修之修之修之修之修  
書而修之修之修之修之修之修之修  
雖或修之修之修之修之修之修之修  
中宣月十日  
寺社奉納  
寺井大炊頭

持州武庫於甲山

神兜寺

右院用修之修之修之修之修之修之修  
天正年中之修之修之修之修之修之修  
寺之修之修之修之修之修之修之修  
甲山後修之修之修之修之修之修之修  
神兜村之修之修之修之修之修之修之修

礎木殘之。以貞寶保年中。院內甲山寺  
門度度。台於中。主庫表。示。以。約。其。示。  
大明比。不。致。合。已。多。是。相。夕。之。用。水。  
石。自。中。寺。為。又。甲。山。寺。後。之。以。物。所。能。  
同。二。己。年。亦。致。其。物。大。坂。町。寺。約。不。  
御。城。代。何。之。形。在。中。後。以。地。物。之。示。  
年。以。示。云。乙。寅。年。本。堂。前。石。櫃。不。以。保。  
三。間。下。梁。間。九。尺。余。杉。約。二。石。之。梁。骨。  
門。新。建。之。候。松。平。石。見。寺。同。不。町。寺。約。  
之。自。願。出。組。之。者。為。見。分。三。尺。之。石。澤。寺。  
之。自。願。之。進。石。見。寺。如。云。年。三。月。仁。  
和。寺。宮。之。橋。門。下。後。亦。建。有。其。件。材。  
亦。根。子。等。寄。附。多。以。自。寺。乙。寅。年。  
亦。願。以。系。醫。門。亦。止。右。場。而。以。度。梁。骨。  
是。丈。之。大。杉。約。或。丈。九。尺。之。橋。門。之。建。之。

五。米。以。長。五。尺。寸。一。二。五。米。像。居。意。度。寺。  
去。十。月。別。紙。之。通。願。書。亦。送。仁。和。寺。宮。  
一。書。付。信。當。相。添。大。坂。町。寺。約。新。石。宮。  
之。樓。門。之。先。亦。於。寺。約。不。步。涉。之。上。下。校。  
造。作。多。神。呪。寺。之。年。一。後。以。之。書。付。七。  
傳。奏。元。不。別。為。之。也。  
禁。裏。以。附。之。大。坂。町。寺。約。之。尺。紙。以。中。右。  
付。於。彼。地。神。呪。寺。之。立。口。河。古。南。大。門。之。  
古。繪。畫。力。亦。不。願。之。以。如。今。古。亦。中。右。  
中。之。亦。願。以。之。亦。遠。亦。亦。中。右。如。室。  
曆。十。辰。年。按。列。傳。上。級。全。統。寺。二。五。尺。  
再。建。之。儀。與。津。御。堂。寺。同。不。町。寺。約。之。  
亦。願。以。御。城。代。何。之。再。建。御。城。代。後。  
天明。元。五。年。播。州。依。用。部。平。福。村。三。  
室。荒。神。社。寺。之。再。建。之。儀。云。全。段。河。

寺法野費節勤設之良形也其良是  
後凡向合之上中法則記之介中  
下成書也之記立社格未不分明  
上ハ難成事以旨及換授以付子殿  
波以迄同不設布書為未見以之  
類例也今ハ付少何下波以之成  
同播与永時若授与ハ裁以少  
後昔面ホ一設性此二王門再建先例  
之儀形凡方書留成原南未見不  
以凡和列胡後孫子寺者中門天  
中院矣以多一礎之由也此ハ  
再建法及綱出昌新寺良也  
初不司代ハ何ハ書面ホ形  
江下上旨ハ波以之明和七  
公設義澤与寺社初後ノ帝  
後孫子

先院元祿年中燒失中門再建願  
之形ハ波以之胡後孫子寺ハ中  
合形ハ通ハ作後以之ハ波以之  
佛當系ハ前ノ向例ハ之ハ波以  
不司代ハ之作也ハ旨ハ波以之  
以舟勤無法此ハ之收形見寺相  
願以樓門ハ儀者右中門ハハ  
大造之也事ハ波以之  
波以之天正元也年燒失之好  
院ハ波以之  
ハ波以之ハ波以之  
通寺ハ波以之  
波以之ハ波以之  
文樓門ハ波以之  
礎之ハ波以之  
波以之ハ波以之  
相願以系醫門ハ波以之  
樓門ハ波以之  
儀ハ波以之  
波以之ハ波以之  
波以之ハ波以之  
波以之ハ波以之  
波以之ハ波以之  
波以之ハ波以之  
波以之ハ波以之

是亦仁祖寺也寺之東附根木也  
有以延二年私取根木以爲之難任事所以  
依願書修造西等事係以辰申月

二月

願書

馬

作願奉終只云之覺

按列武庫殿甲山

神說寺

一按寺境內移甲山亦西按六所南小指町  
性古より深地也寺院堂塔較多也

園基天長六年天正年中迄七百年  
余住居住寺領也百六指石云云以云文祿  
三年按北ノ長寺領、離境內甲山ノ住  
居跡成慶長四年、播列武庫殿神說村  
住居住居甲山ノ元末境內、白堂塔寺  
地ノ礎法抄云々、二月甲山佛性宗寺門  
移ノ度旨寛保元年、新上ノ寺居  
宗下ノ川移住居住居鎮守社祖師堂  
小社等其住神說村、多佛性宗、元  
末宮地、寺ノ石敷合、邑多寺上胡久、  
用水石自由、月石取甲山半後、石、  
手番等宜、古跡礎、多々、世而ハ門、  
度旨寛地、二巳年、御願ノ上、如、是、又、西、  
寺、成、下、唯、今、石、門、寺、住、居、多、如、元、末  
武百七拾年、以、赤、天、正、元、年、燒、去、住

其後再建石塔於此六丁寺以前萬三  
月本堂前石壇分以拾之間下之方南正  
西之梁仍九尺五寸樹約式間（兼醫門  
底根骨骨）仕新建立儀沙賴一之  
沙津答答下其第門全友小大方成結  
似此如滿三月三日本山寺室津新不其甲  
山八姓音事出中、鎮後而、新建立寺院  
之法依此全儀品逐星霜及嘉慶沙  
殘懷不少儀（如元金剛力士等安重）  
樓門之有新建乃以助刃白銀女枚沙附  
或下助志下遂成切旨尚

公道、沙相中上下發告化旨、沙江口末  
掛寺儀、神功皇后三輯征界、後本  
朝、太平也、後、今、甲六旬程与茶  
室叔亦、室翁寒未納之、日本國中

鎮後不、定並、神、法、高、山、外、寺、  
此、所、以、屏、教、句、靈、名、等、茂、今、寺、  
、此、所、以、其、後、仁、王、三、代、淳、和、帝、  
、崇、山、造、世、後、依、此、建、立、寺、  
余坊、寺院、相成中、

源賴朝云、清再建、寺、  
再建同福、無、山、性、古、依、所、  
大門、東、大、門、  
、方、八、百、石、  
、寺、堂、分、式、百、間、  
、健、七、少、  
、元、禄、八、亥、年、  
、推、手、九、代、  
、天、下、無、及、  
、靈、比、

清上聞依

清上命本寺如之場觀音八幡(神祈)并嵩山縁託等翌辛子二月廿五日

桂昌院棟即洋境より以り 清崇位

之上右甲山ハ谷利具比本寺為成白靈  
佛(事)あり國元ハ所立本寺無法  
堂迄言下信言且又千細後

三九棟為清事加也今子貳百為  
下其外本居因幡等及今松為中極

方々金子曰或或等目之夾六百文  
是項或信以天下恭平清武運長

久し清祈禱之念持永く之如初也  
作渡以舟方之紙一紙、お徳持上り

と判お退り江戸言無情(儀)お少  
本寺守護信言子、由由信以史不違く

本寺再具仕申堂未再建仕有之報未之  
恒持寛隆委細記並下以共文

葵河紋附

清仲(清)号牌

葵河紋附葵九の目清紋附寶物箱之ツは  
河添書之少此以切拙奇什物情之記少此又

外、 葵河紋附長持之牌是ハ清河  
書之少此拙奇什物情之記少此又

少此少此在在知中一以此如女永年中  
少此之上清仲、清号牌ハ是是之通

清紋附し不奇什物、被立皮之用る及  
少此之記 作渡以舟方之紙一紙、お徳持上り

為什物大切、守護仕ハ所立本寺  
下上中諸之申所以前文、七一上以是

古位靈地、之由在少此ハ天正年中



火災以後一院之本尊宇護仕百六拾石  
之寺所也相離御廣田明神八間山后  
尾上山儀一帯甲山と一唯今之境  
内除比之寺支配宇護仕在古公為之任  
持隨分再建仕拙僧任威心再造管心  
掛屋立以寺此層垣木山御室法不  
樓門再建丁仕有之作下以右之紙所  
室以可之當御奉納可也法山法可  
有少形以花性寺南大門東大門之儀  
不ハ手壹之寺今一坊之相成以寺其  
不勝自之山法以升先建寺象  
所免許以藥醫門建立ハ相止此層梁  
仍之丈六尺初約或丈九尺之樓門屋  
根尾青仕山内有合以杉木等之離  
木取合之姓古伽羅布一乍与之寺

惠長之五尺壹寸一古十二王尊安立  
之樓門再建仕山内塔園侍淨法以  
天下安全法武運長久等之法初侍  
不忘神宮之御神惣也助之寺之度  
志願外之寺以度以外如性古法堂再  
建之意願之寺以度以外繪圖面之外形相  
銘據之他事不仕以之六之判致也  
別紙之信書之寺仕御室法所法書可  
之字之添之願上之右願之色樓門再建  
所評各被成下以之難之寺存以之

寛政十未年十月廿日

神 院 寺

任持 蓮 眼 下  
病免付代 侍 瑞 下

甲山

阿波播磨及分  
按列武庫部小林村

六二  
作古志下

奉引訃訖

仁和寺宮書月

馬

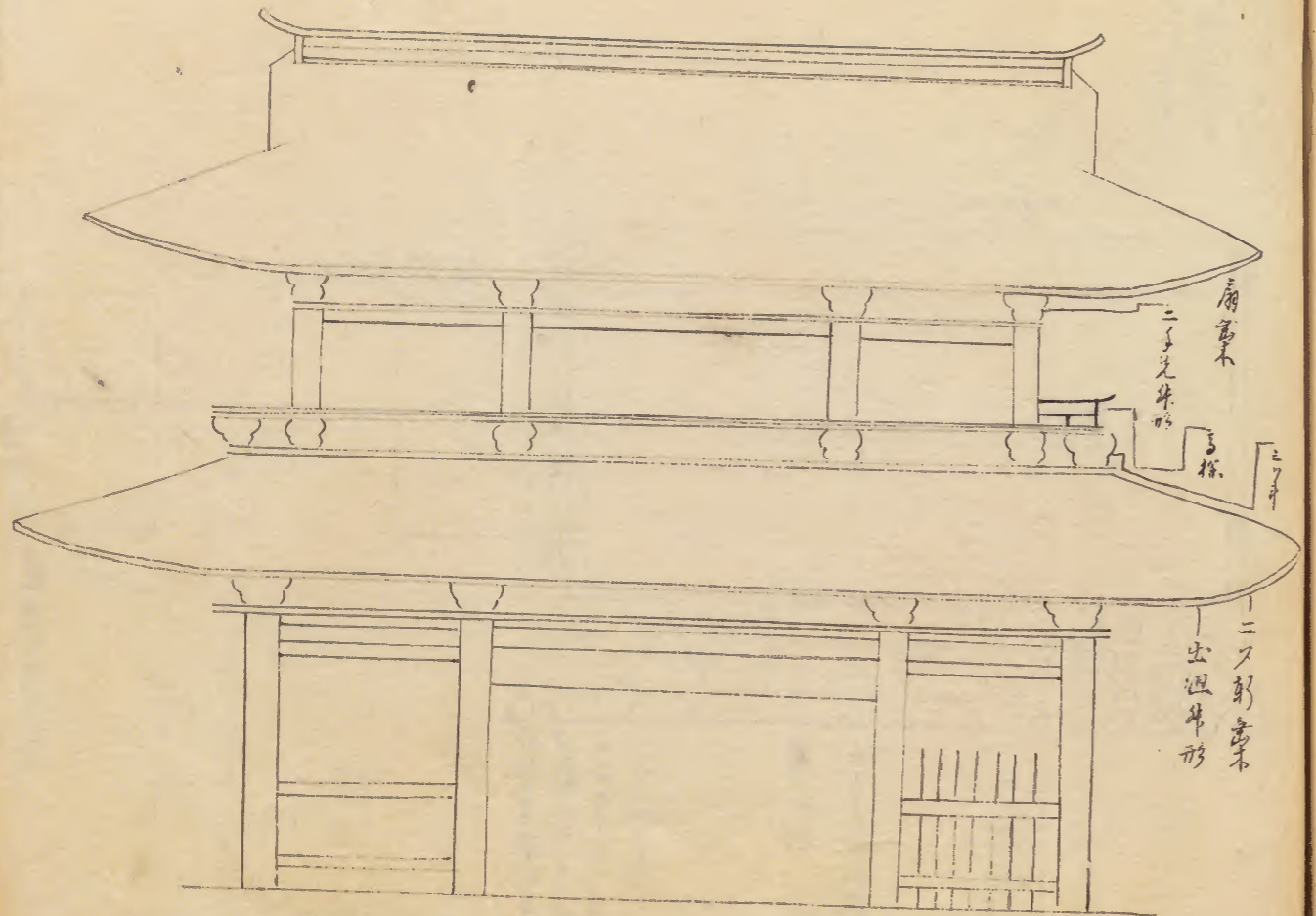
按列甲山

神祝寺連眼

其甲山之儀之日奉國中禎儀之古  
寶矣尔他之儀遂呈霜及露藥所殘  
耀之至以系信高金剛力士之二王  
安置之樓門威儀之了之亦建者  
助刀白銀之校序身附之成下以勵志  
之遂成功之事

寬政十一年  
三月

仁和寺執達役人下波家



甲山神呪寺樓門繪巻

神呪寺車眼

其山金剛力士二五号安置樓門本  
建之儀別紙沙汰書付下以是武  
造上伺至之於造地之方之以上

未三月三日

降靈法詢

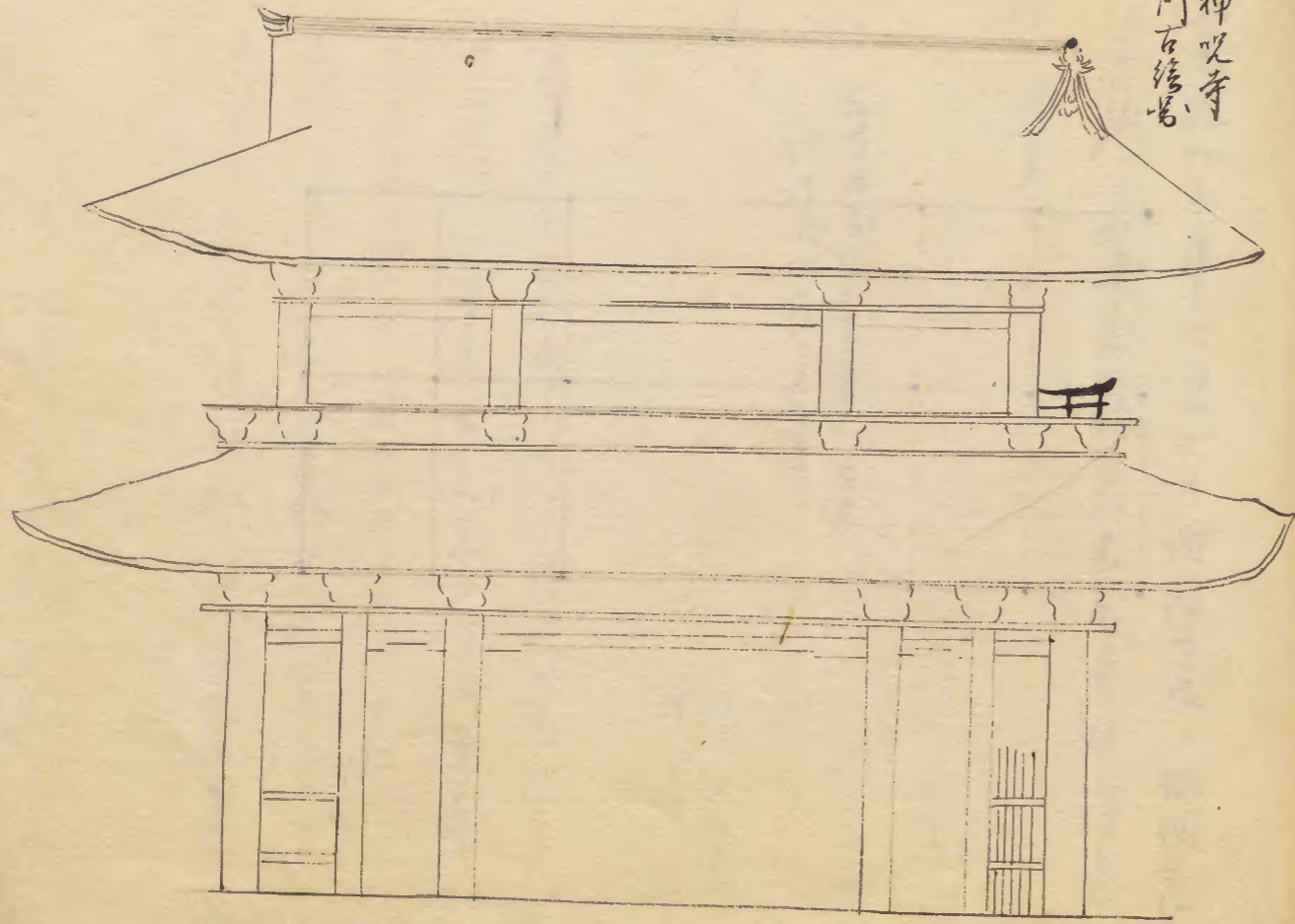
夫寺伊賀守下

音田左兵衛尉下

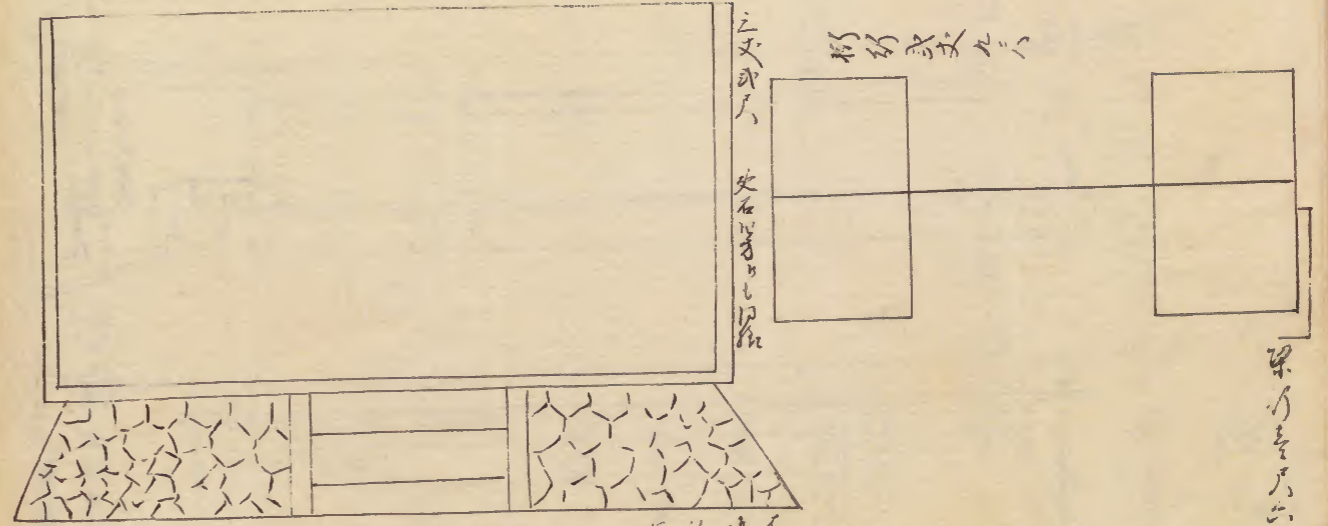
本受出羽外下

谷 夏井下

甲山神呪寺  
南大門古塔



北門



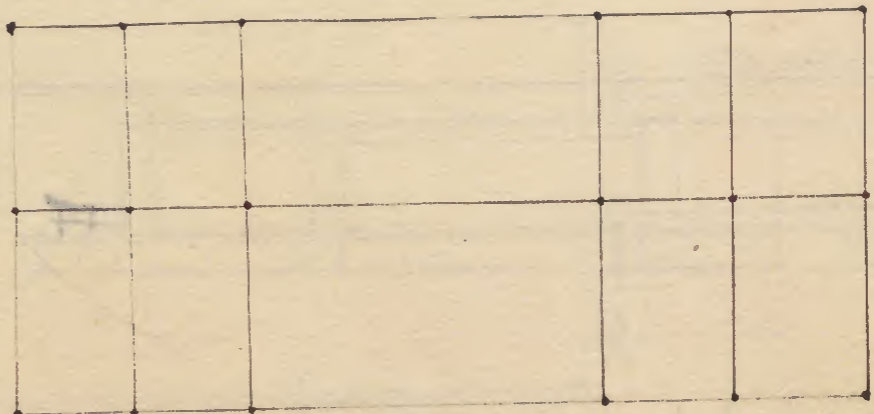
北門  
北門  
北門

北門

北門

南門  
石上三股

石上三股  
北門  
北門



寛政己子年七月七日丹波守左の組頭松  
 次左衛門若尾進を丁校以右名集有秋山杉虫  
 若尾進也

和列相後孫子寺表中門表建  
 一級許級信口級丁上以書并

脇阪法法寺  
 寺務事行

寛政己子年五月廿二日丹波守左の組頭松  
 次左衛門若尾進を若尾進許級進進也  
 其一以書初一通八月廿六日内下上分上  
 十月八日兼分以給寺務事行也  
 分一以書九月廿日内下上分上

和列御後孫子寺為中門北建  
之儀有以符識信也十六日

寺也  
寺也  
寺也

柳法  
寺

但内文後八年之卷之箇条  
祥

寛政十二庚申年宜月廿二日

下月思善化禪宗東昌寺留与居洗  
志同寺年久及無任与法堂及大破  
右修護為助成焉月廿六日教六  
十日之間奉尊正親世音英靈之冥示  
於自坊開悟之儀先述之預到二月十八日自  
宅内身命(音彩)通之免則冥悟相  
始在左之如右留与居洗志同僧未滿  
中當十二日出奔(音)之(音)清石相知也  
世間相届出(音)後同宗東昌寺代  
竜山寺者王貫道在通教(音)也  
右禪書英本寺西向寺(音)在(音)法  
左(音)右類開帳未滿日教中(音)也  
安(音)其殊(音)日教其(音)也  
以(音)下(音)以(音)開帳(音)也

内寄合帳不遂吟味也...是近右彭  
 先例...身尚自...  
 已年...  
 右...  
 年...  
 未...  
 巡...  
 中...  
 度...  
 延...  
 俄...  
 及...

今日...  
 章山...  
 一...

上

正恐...  
 上

一...  
 及...  
 願...  
 俾...  
 右...  
 出...  
 考...

依之寺為再建 本寺宿帳寺願上  
以儀之由 凡日開帳之儀 壯僧之儀 意  
慈悲是近之通 淨免寺始有本  
寺宿帳寺願上 此後 正恐以書甘奉  
願上以上

善化禪宗

西向寺末

東昌寺代

寬政十二庚申年

全四月

龍山寺

有主

母貞道下

寺社

淨奉行所

上

正恐以書付寺願上

一 下月黑村東昌寺儀七ヶ年 無任之有  
及破滅為再建本寺開帳寺願上以上  
形之趣也 作分難有住人々々之  
右寺苗守居流忘云々十一日与風  
以之云々後一向佛寺石仕以乃而心  
出有之云々相尋以如行情者知石山依  
之宿帳之儀寺為再建本願上以上  
度以石何平東昌寺代龍山寺者  
主貞道下  
淨免寺 作有之云々年依倫之云々上



大正拾陸年五月廿八日書付法親王中上以上

西向寺

寬政十二庚申年 看主

四月 園水亭

寺社

佛奉行所

寬政十二庚申年五月

一書

有德院様五十回忌忌口法事一書  
因胎曼佗と一儀之為一紙に以て之を御  
指儀院并法用向之に付御付申上之  
同廿七日迄一書宛封し之を御付

上

楞伽院

先日叅上之節御尋ニ付卒尔ニ  
御答申上ソ口趣任仰書付申  
候如左

御速夜御法會胎曼佗供ト申スハ  
真言秘密ノ行法ニテ本式ハ顯

去

露ニ人ニ見セ申ス行法ニハ之十ク  
 候然レテ尊靈御追福ニ無上醍醐  
 ノ滋味ヲ薦メシメニカ為ニ慈眼大師  
 出格ノ手段作用ニテ始メ玉フトト  
 聞ヘ申シソコ胎曼供トハ畧語具ニハ  
 胎藏曼陀羅供ト申シソコ壇ノ向ニ  
 掛置キ候ハ胎藏九會曼陀羅ト申スモ  
 ノニテ中央ハ大日如来ニテ固リニ四佛  
 四菩薩在ス之ヲ九會ト申候其外ニ周  
 迎セル諸尊達千工香華燈明ヲ第  
 一トシ飯汁饌菓等ヲ備ヘ恭敬供  
 養シ奉リ行者一品宮ハ身ニハ印契ヲ  
 結ヒ口ニハ真言ヲ唱ヘ意ニハ觀念ヲコ  
 ラシ玉フ是ヲ身口意三業ノ行ト申  
 シソコ此ノ功德ヲ回ラシテ

靈廟工手向ケ奉ルヲ御回向ト申シソ  
 コサテ胎藏曼金剛曼兩曼陀羅アリ  
 又之ヲ合メ胎金合ト申シ是ヲ三部トシ  
 之ヲ傳フル者ヲ三部都法ノ大阿闍黎ト  
 申シソコ御遠夜御法會ハ其ノ中ノ胎  
 曼供ニテ御座候此レ真言密教甚深  
 無上ノ法ニテ陳隋天台大師之比ハ未  
 タ天竺ヨリ此ノ流傳ナキニ漢土ノ  
 天台宗ハ專ラ無上醍醐ノ法華バカリ  
 ヲ弘メ候得共唐朝ニ真言故渡リ候  
 ニハ睿嶽閑祖傳教大師入唐シテ天  
 台法華宗ト真言密教トヲ傳ヘ玉ヒ  
 吾ノ本邦比叡山ヲ開キ於ニ山ノ以ノ二  
 教ヲ弘メ車ノ兩輪鳥之雙翼ノ如ク  
 鎮護因家ノ道場トシ玉フトヨリ以

来至<sup>ラテ</sup>今<sup>ニ</sup> 本邦ノ天台宗ハ右ノ兩教ヲ  
稟テ兼學修行仕候之ヲ遮那止觀  
ノ兩業ト申シソ口山徒隨<sup>ラ</sup>機<sup>ヲ</sup>其<sup>一</sup>ノ稟  
學仕候ヲ笠山ノ比丘ト申シ一紀十二年  
之間山門ノ結界ヲ出テス修行仕ソ口御  
當日ハ前三日之間三百七十人ノ衆僧  
讀誦シ奉リシ究竟醍醐ノ妙經一千  
餘部ヲ回<sup>ラ</sup>シテ 尊靈正午向ケ  
奉ルニテ御座ソ口是ヲ御經供養ノ法  
會ト申シソ口差定ニ十種供養ト之レ  
アルハ一ニハ華ニハ香三ニハ瓔珞四ニハ抹香  
五ニハ塗香六ニハ燒香七ニハ幡蓋八ニハ衣服  
九ニハ伎樂十ニハ合掌ト申シソ口サテ御當  
ハ

不申様ニ長キ行法ハ御速夜ニ執行セ  
ラレ候トニ御座候

五月

楞伽院長善

寛政十二庚申年五月二日

安樂心院宮内修儀有右平長谷部因  
女同合以有執南（北）札（北）以書由左  
之通

但同月五日周助（北）未事（北）

櫻伽院  
園覚院

輪王寺一品公澄親王濟申編

一 佛養父

道桃園院

一 佛養母

盛化門院

天明三年三月十三日罷

一 佛兄

高今

七

一 佛妹

中宮佛所

佛兄

聖護院宮

佛伯父

一宗院宮

同

仁和寺宮

同

清淨公院宮

同

安樂心院宮

佛伯母

妙法院宮

佛實方

林丘寺宮

一 佛父

伏見宮御親

一 佛母

達君

佛實母中門左大納言宗晏御之女

一 佛兄

伏見前稱宮

一 佛妹

多哉宮

一 同

壽宮

一 佛伯父

吉連院宮

一 佛伯母

田 壽宮

右之通 通 通

六月

吉連院宮  
田 壽宮  
吉連院宮  
吉連院宮

安樂心院宮

一 佛養父

桃園院

一 佛養母

女院佛所

一 佛伯母

仙洞佛所

一 佛甥

當今

中宮佛所

一 佛伯父

青蓮院宮

一 佛兄

一 宗院宮

一 同

仁和寺宮

一 佛才

妙法院宮

一 佛甥

聖護院宮

一 佛實方

一 佛兄

閑院淳正寺宮

一 同

仁和寺宮

一 佛才

妙法院宮

一 同

古今

一 同

聖護院宮

一 佛妹

靈隱寺宮

一 同

裕宮

一 佛伯父

曾司平園日備寺宮

一 佛伯母

三時知恩寺宮

一 佛徒才

西宮富交後院宮

伏見部令美佛出明

一 同

達君

有柄川中務令美佛藤中

一 同

房君

一 同

大 宗院宮

一 同

三寶院宮

右之通少院

五月

寛政十二庚申年五月十八日

一坊上手院居巖峯第六傳正明十七日述化、古役名所  
本坊寺同日了却業山

御威、此方丈殿出初事、此宗法、忌後、未所、也、是、  
接、寺、事、也、不、當、公、附、有、役、人、名、乃、有、身、是、  
左、通、以、書、付、中、出、右、明、之、事、也、此、方、丈、所、出、初、  
後、居、二、列、巖、峯、述、化、了、也、中、一、年、也、

免

坊上手院者

免

出家、忌後、不、了、以、坊、之、忌、後、代、事、也、  
忌、事、以、坊、也、

御目通

御言

佛靈屋之楹波之事在三日幸而此法以石  
得之其所以波之上以以上

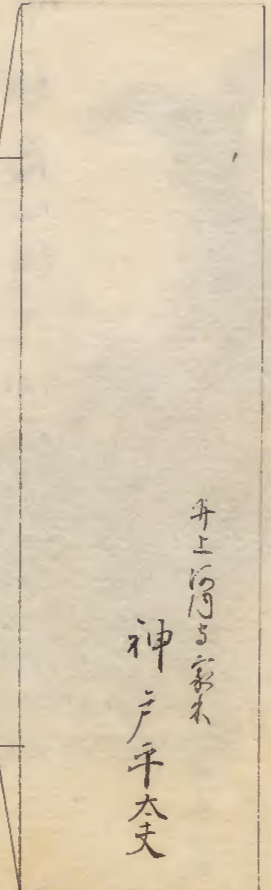
二月

增上寺  
後者

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

寛政十二庚申年六月

一 寺社門外棟瓦鋪喰吻揚以儀井上  
河内守家来々月番周防及同合方  
之別同段以儀相談之上以附札取相管右  
之通



河内守領分寺社門外社棟瓦鋪喰吻  
揚以事以中緒多々寺社七石若以式  
但中緒石分明以儀

一 棟瓦鋪之場所以喰吻以月鋪紛及以儀



有束之糸ハ不苦以也

一 喰吻社古より本堂に棟瓦有るに世守中

門台引以て揚束を後換中絶りて再建不苦

以也

一中絶之年枚ハ行々年々一り有列り也

以也

右之趣為心得法回合し上り也

井上河内守家系

六月七日

神戸平之史

書局寺社門外社古も齋喰吻揚りハ大造  
右見以候に有束ハ柱列  
所来不世に寺社古も新規勿論中絶後  
お造りも不世成筋之に本堂多之門上り  
以て因所と存に世中絶年枚多列揚り以能  
く事以

申八月

齋之圖



噴吻之圖



寛政十二庚申年六月

一 支那羽紋の勅定組以格羽田在案為候時及布衣等  
 作付評定所沙勅定組以甲斐唐武助等用子信以  
 候方信付以月米屋金初白と格物と公儀方何取羽等  
 同紋一合、是書存通  
 但月八月甲辰又沙勅定組以信付以甲斐唐武助等  
 候方信付用白と白と白と白と白と白と白と白と白と白と白と  
 同紋一合、是書存通  
 甲二月廿日米屋金初白と格物と公儀方何取羽等  
 候方信付用白と白と白と白と白と白と白と白と白と白と  
 同紋一合、是書存通

宋如正殿上

羽田在案為候時及布衣等  
 作付評定所沙勅定組以甲斐唐武助等用子信以  
 候方信付以月米屋金初白と格物と公儀方何取羽等  
 同紋一合、是書存通  
 但月八月甲辰又沙勅定組以信付以甲斐唐武助等  
 候方信付用白と白と白と白と白と白と白と白と白と白と  
 同紋一合、是書存通  
 甲二月廿日米屋金初白と格物と公儀方何取羽等  
 候方信付用白と白と白と白と白と白と白と白と白と白と  
 同紋一合、是書存通

私元支那羽田在案為候時及布衣等

作付以月羽田一白と出仕席頃之候時  
 羽代次布衣沙代信上甲斐唐武助

同次、お公崎より一紙之紙あり

六月

中六月廿二日宋如正殿に寄りて、御座に在りて、御座金庫、御座  
御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

宋女正殿

羽田後高、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

書面御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

中六月廿三日

松平園防寺  
寺社奉納

寺社奉納吟味御座

御座御座御座

羽田後高

右法改命、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

是近書面、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

除、宋寺社奉納吟味御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

六月

中六月廿三日宋如正殿に寄りて、御座に在りて、御座金庫、御座  
御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

宋女正殿

羽田後高、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

書面御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

中七月廿三日

松平園防寺  
寺社奉納

私、支配羽田御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座、御座御座

三日佛誕初法能見相且係時法經織法  
 接續伺未出位(長)於前以序之織坊間  
 相伺以進花洋那代之布衣也代互之  
 甲斐唐武助次席上(長)於前下後景  
 一玄猪以祝儀之長(支)配吟味物調役也  
 (長)於前(合)人(長)於前(支)配吟味物調役也  
 長(支)配吟味物調役也  
 石物利修(長)於前(支)配吟味物調役也  
 助儀(長)於前(支)配吟味物調役也  
 頂裁(長)於前(支)配吟味物調役也

六月

中六月廿三日宋女正及(長)於前(支)配吟味物調役也  
 拓蘇尔合十席(長)於前(支)配吟味物調役也  
 六月廿四日

宋女正及

羽田後(長)於前(支)配吟味物調役也  
 書面(長)於前(支)配吟味物調役也  
 次(長)於前(支)配吟味物調役也  
 中六月廿四日  
 奇社奉納

奇社奉納  
 中六月廿四日

松元文配羽田(長)於前(支)配吟味物調役也  
 作(長)於前(支)配吟味物調役也  
 中六月廿四日

中六月廿二日(長)於前(支)配吟味物調役也  
 下(長)於前(支)配吟味物調役也

羽田後有為候之紋布衣等 作付  
 甲斐元武助法用寺傳以格等 作付  
 以之月以來之紋布不取手限之為及  
 申方之候之勢ノ石ノ一座評紙相是  
 吟味也亦武助ノ評紙才取調存考未  
 布ノ候之員候ノ中評紙以上評紙ノ  
 長ハ通候一箇内座ノ候候評紙未也  
 為候且評紙取評紙底ノ付ハ評紙  
 武助ノ評紙取評紙  
 但之四段評紙ノ評紙ノ為及申方ノ

候若書之趣石勢候ノ先極重ノ武  
 助手元四用向お考以長相個人ノ  
 評紙才留候ノ評紙取評紙  
 一 幕下下候

一 幕下式日立合共每月約日留候合  
 之旨ノ評紙取ノ合為人死外為  
 人ハ宅ノ出知ノ事ノ幕下候  
 式日立合共朝日合ノ石ノ額ノ  
 出早野鉄三郎平山六郎西田金次郎  
 内人死外幕下候  
 評紙取ノ事ノ幕下候  
 幕下候ノ事ノ幕下候

但本文幕下候ノ幕下候ノ旨ハ是之趣  
 評紙取ノ事ノ幕下候  
 一 式日立合ノ幕下候ノ事評紙取

是通留後一同亦込高島立相徳来以  
交武助手傳、清用白袋多し以中  
高番刺合在除且於評席同安方讀以  
候し武助同様在口取役下達以

一或日立合條時考合本、席中料理頂裁  
候武助同様於同席頂裁、為致候付  
之上、下渡口積り候に武助候八目、評定  
下口候、以方定式二之間、料理相  
以越、以越、下、為、候、八、第、書、一、通、一、  
月、取、三、度、七、名、時、候、下、達、以、  
下、度、と、評、定、理、以、中、候、以、下、候、流  
新、有、石、時、候、以、下、八、每、高、採、集、  
積り、下、達、以、下、候、以、

一評定存候に、武助清用手傳り候  
候、下、達、以、下、候、以、評、定、以、下、候、以、

付於 御殿、申、込、申、込、不、可、不、可、是、上、  
懸、お、申、込、候、申、込、積、り、評、定、以、

布、越、及、坐、合、候、申、込、下、等、以、候  
申、込、候、以、

六月

本年、御、申、込、候、申、込、以、下、條、候、書、以、候、以、  
評、定、候、申、込、候、申、込、中、候、以、下、候、以、  
武、助、等、人、之、而、候、申、込、候、申、込、候、以、下、候、以、  
以、候、申、込、候、申、込、候、申、込、候、申、込、候、以、下、候、以、  
六、月

下、御、申、込、候、以、

中六月九日、御、申、込、候、申、込、九、歳、候、以、

四月十九日

寺社奉納の味打調役

由初迄他迄指

羽田倉吉

右今般布衣は 俗付の件定所式日立合  
條時考合少くは四料理段頂裁は身以米  
武助同候由是下二之間四料理由是下後  
一 淨用云々

淨殿の候は以前も二之間四料理頂裁段

以方之勢及く二及出候は身以是後も兼  
及由是合並口

六月

申六月十九日羽田倉吉(後布衣) 俗付候一席の候  
同人候は身以米女由是下二之間上同女日及く是後礼一  
右是布衣忌用 候二及付口

奉納の書付

羽田倉吉

私儀今日布衣忌 候身是上上野

淨靈斎洋礼 候布衣忌用仕候は身以是後

一 烟後九日想出仕、身序、後、甲斐、店、武、知  
 二 水、合、同、人、新、以、席、口、出、仕、三、仕、以、以  
 右、二、个、条、之、送、在、熟、了、以、候、身、是、幸、何、以、其、所、不  
 之、兼、以、身、是、度、候、清、所、以、之、<sup>取、調</sup>進、与、由、何、以、其、所、在  
 以、上、

六月十九日

羽田屋右衛門

布衣忌用、楊子吹才、了、  
候、以、

席、順、之、候、在、評、候、代、候、布  
 衣、代、候、<sup>上</sup>、甲、斐、店、武、助、二  
 同、候、之、由、由、得、以、

申六月廿五日、同七月六日、以、願、札、申、上、

伺書

羽田屋右衛門

私、儀、今、段、布、衣、<sup>不</sup>、<sup>候</sup>、<sup>身</sup>、<sup>以</sup>、<sup>米</sup>、<sup>評</sup>、<sup>定</sup>、<sup>所</sup>、<sup>り</sup>、<sup>候</sup>、<sup>任</sup>  
 不、甲、斐、店、武、助、清、用、之、候、身、傳、以、候、之、候、候、<sup>身</sup>  
 心、持、方、之、儀、在、申、候、以、

一 和、湯、後、身、之、儀、以、切、米、少、給、文、之、趣、是、近、ハ、寺、社  
 之、事、以、吟、味、地、調、候、由、勤、定、紐、以、格、<sup>ハ</sup>、由、徳、米、<sup>ハ</sup>  
 和、湯、勤、定、紐、<sup>ハ</sup>、布、衣、<sup>之</sup>、<sup>無</sup>、<sup>清</sup>、<sup>所</sup>、<sup>以</sup>、<sup>候</sup>、<sup>身</sup>、<sup>是</sup>、<sup>幸</sup>、<sup>何</sup>、<sup>以</sup>、<sup>其</sup>、<sup>所</sup>、<sup>不</sup>  
 由、勤、定、紐、以、格、<sup>ハ</sup>、由、唱、以、儀、<sup>不</sup>、<sup>由</sup>、<sup>身</sup>、<sup>是</sup>、<sup>幸</sup>、<sup>何</sup>、<sup>以</sup>、<sup>其</sup>、<sup>所</sup>、<sup>不</sup>  
 由、後、身、<sup>ハ</sup>、<sup>由</sup>、<sup>心</sup>、<sup>持</sup>、<sup>以</sup>、<sup>候</sup>、<sup>身</sup>、<sup>是</sup>、<sup>幸</sup>、<sup>何</sup>、<sup>以</sup>、<sup>其</sup>、<sup>所</sup>、<sup>不</sup>

一 年、始、五、節、句、月、並、沙、礼、<sup>英</sup>、<sup>玄</sup>、<sup>指</sup>、<sup>和</sup>、<sup>祥</sup>、<sup>沙</sup>、<sup>候</sup>、<sup>任</sup>



年姑涉流項載由能見也且條時涉程候  
涉穢嫌何不出信、許自、以涉序之候、是也  
甲斐店武助次、附回序、以涉、以、候、在

但布衣也 信身、以、三、月、三、日、由、信、初  
信親式、以、候、以、候、是、又、武、也  
次、附、回、序、以、候、以、候、是、也

一、玄、猪、涉、候、候、一、役、一、人、以、候、以、候、  
武、助、候、以、布、衣、之、項、載、之、振、合、以、遠、在、以、助  
是、候、候、一、役、一、人、以、候、以、候、  
私、候、以、右、飛、一、年、以、候、以、候、  
山、六、右、候、以、西、田、金、次、郎、以、候、以、候、  
以、候、以、候、以、候、以、候、

一、公、事、出、入、以、候、以、候、以、候、  
頃、以、候、以、候、以、候、以、候、

三、以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、

一、甲、斐、店、武、助、勤、向、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、  
以、候、候、以、候、以、候、

由田原之兵不渡也亦仕止評定所由取律  
印原身公附出候ハ武助ハ一誤以事ハ  
右公由是仕止

一 是近式日立合英五月朔日留役奇合長  
ハ同役凡ハ合支人宛存支人ハ由是

五 留役仕來ハ知ハ未私候ハ式日立合英  
日奇合ハ右支出知仕留役以奇平山

六 左馬西田金次郎之同支人宛存ハ後  
ハ合私候用日間ハ一月支三度ハ評  
定不仕候ハ後仕止

六 評定事約元手張也英道中方候若  
書通右携候ハ先ツ右控以テ武助手

元涉用向右書以右招同人ハ一法  
改才而役ハ評職相傳ハ仕候候下之  
産候ハ右由是後仕止

一 式日立合ハ英其日ハ公事評定留書是近  
而役一同歩込高番等立相認本以私候ハ

七 武助手傳ハ法用事ハ以右高番割合  
除役仕法評序ハ同安候以候ハ是也

通下仕止

一 式日立合ハ前武助候於法同産法料理  
項裁仕候私候候以未武助同候法同産

法料理評定不仕候ハ以右定式ハ二之間法料  
目ハ評定不仕候ハ以右定式ハ二之間法料

一 式日立合ハ前武助候於法同産法料理  
項裁仕候私候候以未武助同候法同産

法料理評定不仕候ハ以右定式ハ二之間法料  
目ハ評定不仕候ハ以右定式ハ二之間法料

一 評定不仕候ハ以右定式ハ二之間法料  
目ハ評定不仕候ハ以右定式ハ二之間法料

九  
其旨二二間少料注以裁仕以儀と事存以者  
其後兼台少月分元日少形少成無以候法及  
存日

一寛政三三年 杉田口人新規、年社事行  
支配評定不而候也

所用少細少却是事行元日少然合不有也  
支配、少成少上ハ少少却是事ハ立入不有候  
格、少少結之、今役甲斐店武助法用白  
子傳以候也 作出、少少却是事ハ不候、  
以ハ少少支度下少少法不候、却候、以少知以本  
評定不有候、其武助法用子傳以候也  
信後少候、少少評定不有、法用、其  
評定不有、其少少、其少少、其少少、其少少、  
其見、少、以少、其少、其少、其少、其少、其少、  
其、其少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、  
其、其少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、

以候丁仕以候

申  
六月

羽田倉右衛門

三  
是迄、是下少候也

四  
形澤形代次布衣代官、上甲斐店武助  
時序、少少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、  
其少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、

五  
是迄、是下少候也

六  
是迄、是下少候也

七  
書而是下少候也、其少、其少、其少、其少、其少、其少、  
其少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、其少、

六

是近之通也

七

古而之通也

八

或曰是合備時分合少之長於因產法科甲其  
序或中法之長也

九

古同月之通也

十

是近之通也

申七月三日

相田孫之馬布衣

作射射一合之

一金七兩

多事於入包  
裁一色付

右通中元歲暮乃後

以子成也

用之也

是近法向同合

是人之取調

是作月

是

是

一 初日吉山に於て多量に米俵を貯蓄せしが

但吉山に於て自給に足らざるを以て一合を

一 清用向言移電に任職し而して送るに依り

米を以て糧為人虎食に之は是れ也

是れ也

一 年始に舟表立以後に於て紙幣の發行は小座敷

に於て發行せられたるに依り

一 初日此初日一席に於て米俵を貯蓄せしが

出来相通清用向言取調し一合を別開

に於て發行せられたるに依り

一 尾の枝に於て多量に米俵を貯蓄せしが

一 席に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て

一 清用向言役人凡そ一合を以て發行せしが

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て

一 評序に於て發行せられたるに依り

一 評序に於て

申八月四日大幣發行

初日吉山に於て多量に米俵を貯蓄せしが

但吉山に於て自給に足らざるを以て一合を

一 清用向言移電に任職し而して送るに依り

米を以て糧為人虎食に之は是れ也

一 本寺為後醍醐天皇<sup>十三年</sup>遷居足利殿是也乃後醍  
 根三枚元瑞公<sup>十三年</sup>便之有持後下授少  
 心本寺社奉行<sup>十三年</sup>方津用向<sup>十三年</sup>心奉分公  
 形以 作分心<sup>十三年</sup>分<sup>十三年</sup>中元歲暮後白  
 祭下後<sup>十三年</sup>心<sup>十三年</sup>合心<sup>十三年</sup>下授少  
 石寬政十三年八月四日於評定所  
 合心事

寬政十一年庚申年七月八日

一 上野國一宮拔鉞大神鐘之銘大炊

頭ヨリ借寫之

拔鉞神社鐘銘

上野國耳樂郡一宮正一位勳  
 五等拔鉞大明神者延喜式所  
 謂貫前神社是也儀部氏世掌  
 祭祀稱德帝天平神護二歲賜  
 物部公住清和帝貞觀元年加  
 授神位其後階勳累進遂推崇  
 為此列第一宮俗傳稱菖蒲之  
 谷垂荒能稻合之迹賢木鬢示

來汎蓬矢儀神世之苜板諏訪  
 之牙以被遂不煩康和平納敦  
 基之叙示其無恙然兵革早潦  
 疾病凡有求者祭則必歆瞻仰  
 不怠効驗如有賴義征負任義  
 家伐武衛皆祈而有應贈鎮守  
 府將軍大倉令新田義重居判  
 寺尾城以源家嫡汎有自立志  
 殊信此神此神駕驗駁故其家  
 門不棄此毛馬焉慶長年中  
 東照大神君繹其由緒掌經營  
 神宮及諸堂原木追遠之儀舉

可謂大矣其威雖新風霜既古  
 故今幕下

大君遠慕負觀之芳燭近速慶  
 長之盛事晰建神宮改造群宇  
 締構盡巧輪奐極美神德於是  
 平益昭々矣豈啻為一方一列  
 之鎮護而已哉爰架高樓峙巨  
 鐘其銘曰

上野大社貫前神社驅邪除害  
 鎮國利民其區既久秘殿惟新  
 祭儀隨例功驗呈真九乳遠響  
 万祥必臻風和雨順世々無限

于時寬永十二年乙亥九月吉祥日



